DocAve® version 6

コネクタ

ユーザー ガイド

目次

DocAve コネクタ for SharePoint について 6
補完的な製品 6
始める前に 7
構成 7
エージェント 7
必要な権限 7
エージェントアカウント権限 7
ファイルシェア権限 8
ローカル システム権限 10
はじめに 11
コネクタの起動 11
ユーザー インターフェイスの概要 12
ファームおよびノードの選択 13
コネクタを構成および展開するための基本的な手順 13
BLOB プロバイダの構成 14
BLOB プロバイダの推奨事項 15
BLOB プロバイダの有効化 17
マッピング設定の構成 20
共通マッピング 20
プロパティ マッピング 21
セキュリティ マッピング 22
コネクタ ソリューションの展開 24
コネクタ機能のアクティブ化 25

SharePoint を介してコネクタをアクティブ化 25
DocAve を介してコネクタをアクティブ化 26
SharePoint とストレージ パスの間の接続の作成 27
詳細の表示 27
コネクタ パスの構成 28
Web アプリケーション、サイト コレクション、またはサイト レベル 28
ライブラリ レベル 30
同期設定の構成 35
処理プールの構成 36
継承設定の構成 37
サイト コレクション 38
サイト 38
ライブラリ 38
コネクタ設定の削除 39
SharePoint でコネクタ ライブラリの作成 40
コネクタ ライブラリの使用 42
ドキュメント タブの使用 42
ライブラリ タブの使用 44
コネクタ タブの使用 45
メディアシェア ライブラリでサムネイルの表示 45
ffmpeg または SMPlayer のインストールと構成 46
コネクタ ライブラリの保持 48
手動で SharePoint を介して接続パスでライブラリを同期 48
スタブの実体化 48
スタブまたは実コンテンツの判定 49

コネクタ ジョブ状態の確認 50
DocAve 5 スタブを DocAve 6 形式にアップグレード 51
コネクタ SDK を使用してレポートを生成 51
コネクタ ツール 52
コネクタの注意事項 52
サブ データベースの継承 54
ホット キー モードの使用 57
ホット キーを使用してコネクタ ページへのアクセス 58
機能の管理 58
共通マッピング 59
プロパティ マッピング 60
セキュリティ設定 60
BLOB プロバイダ 61
処理プール 61
コネクタ SDK および PowerShell の使用 62
コネクタ SDK 62
コネクタ PowerShell 62
登録したコネクタ スナップインの追加 62
コネクタ コマンドのリストの取得 63
ヘルプ情報の取得 63
DocAve コネクタの使用例 65
付録 A: メディアシェア ライブラリ内のビデオ / オーディオ / 画像ファイル 67
付録 B: マルチブラウザ サポート 70
付録 C: コネクタ構成ファイル 71
付録 D: カスタマイズ サポート表 74

SharePoint から外部ストレージ システムへの同期 75
外部ストレージ システムから SharePoint への同期 76
付録 E: エージェント ツールによる BLOB プロバイダの有効化..... 78
EBS の有効化 78
RBS の有効化 80

DocAve コネクタ for SharePoint について

DocAve コネクタを使用すれば、移行をせずに、SharePoint を直接経由するネットワーク ファイルシェアおよびクラウド ストレージ リソースを共有することが可能です。接続されたコンテンツは、通常の SharePoint コンテンツのように表示され、あたかも SharePoint のドキュメント ライブラリの中に存在するコンテンツのように利用することができます。権限管理やワークフロー、通知、バージョン管理など、SharePoint に含まれるすべてのパワフルなドキュメント管理機能が接続されたコンテンツに適用されます。

さらに、コネクタを使用して、組織は専用の SharePoint メディアシェア ライブラリを介してオーディオ / 画像ファイルを管理したり、表示することができます。ネットワーク ファイルシェアおよびクラウド ストレージ リソースに保存されたすべての wmv、wma、mp3、aac、vp6、mp4、mpeg、mpg、avi、および wav 形式のファイルは、高速配信およびストレージの負担削減のために、SharePoint を介してストリーム配信され、表示されます。「接続された」メディア コンテンツは、権限管理、ワークフロー、通知、バージョン管理などの SharePoint のパワフルなドキュメント管理機能で管理されます。

補完的な製品

DocAve 6 プラットフォームでは多くの製品および製品群はお互いに連携して実行されます。コネクタと次の製品を一緒に使用することをお勧めします。

- DocAve コンテンツ マネージャー for SharePoint: SharePoint のコンテンツを再構築または移動します。
- DocAve レプリケーター for SharePoint: SharePoint ファーム内もしくは異なる SharePoint ファームの間で SharePoint コンテンツをコピーします。
- DocAve レポート ポイント for SharePoint: SharePoint 環境の障害点を調べ、SharePoint ユーザーが行った操作と変更内容をレポートします。
- DocAve データ保護: バックアップ & リストア ポイントを設定し、SharePoint ガバナンス ポリシーを調整します。

始める前に

DocAve コネクタをインストールし、使用する前に、まずシステムとファームの必要な条件を確認してください。

構成

DocAve コネクタを使用するには、DocAve 6 プラットフォームをお使いのファームにインストールし、正しく構成しておく必要があります。DocAve 6 がファームにインストールされていない場合、コネクタを使用できません。インストールの詳細については、DocAve 6 インストール ガイド を参照してください。

エージェント

DocAve エージェントは、 DocAve ジョブの実行を担当し、SharePoint オブジェクト モデルと相互にやり取りします。DocAve エージェントにより、DocAve マネージャーが該当のサーバーと通信することができ、コネクタコマンドが正常に機能することができます。

***注意:** インストールしたエージェントを実行すると、サーバーのシステム リソースの使用率が増加するため、サーバー パフォーマンスに影響を与えることがあります。ただし、サーバーにインストールしたエージェントを使用しなければ、システム リソースの使用率は低く抑えられるため、サーバー パフォーマンスへの影響はほとんどありません。

DocAve プラットフォーム、DocAve マネージャー、DocAve エージェントのインストールについては、DocAve 6 インストール ガイド を参照してください。

必要な権限

エージェントアカウント権限

コネクタを正しくインストールして適切に使用するためには、エージェント アカウントに以下の権限が設定されていなければなりません。

1. ローカル システム権限:この権限は、インストール中に自動的に構成されます。インストール中に自動的に構成される権限リストについては、ローカル システム権限 を参照してください。

2. SharePoint 権限:これらの権限は自動的に構成されないため、DocAve 6 コネクタを使用する前に、手動で構成する必要があります。

    a. ユーザーは、**ファーム管理者** グループのメンバーです。管理センターは、ファーム間、そして SharePoint のすべての設定と構成に対して作業を行うことから、最適かつ最も完全な品質のサービスを提供するために、このアカウントが必要です。

    b. Web アプリケーションのユーザー ポリシーによる、すべての Web アプリケーションのすべてのゾーンに対するフル コントロール

3. SQL 権限:これらの権限は自動的に構成されないため、DocAve 6 コネクタを使用する前に、手動で構成する必要があります。

    - メンバーは、コンテンツ データベース、構成データベースおよび全体管理データベースを含む SharePoint に関連するすべてのデータベース用の **db_owner** データベース ロールを持ちます。
    - コレクタ ジョブを実行する前に、スタブ データベースを作成する必要があるため、メンバーは SQL サーバーへの **db_creator** のデータベース役割があります。

ファイルシェア権限

ファイルシェアにアクセスするには、コネクタ ライブラリによって使用されるユーザー アカウントに、以下の最小限の必要な権限がっ設定されていることを確認してください。

NTFS 権限	**必要 ?**	**必要な理由**
フル コントロール	いいえ	
フォルダーのスキャン / ファイルの実行	はい	サブディレクトリ内のデータにアクセスするために、コネクタはフォルダーをスキャンします。フォルダーから直接ファイルを開く必要があります。
ディレクトリの一覧 / データの読み取り	はい	コンテンツを SharePoint 内に表示するには、コネクタはフォルダー内のコンテンツをすべて一覧表示する必要があります。SharePoint 経由でバイナリを提供するに

		は、データを読み取る必要があります。
属性の読み取り	はい	SharePoint には Office ファイル属性を読み取る昇格および降格の機能があり、これらの属性を列データとして使用します。
拡張属性の読み取り	はい	Office ファイルは SharePoint の昇格および降格のプロセスに使用されるカスタム属性などの拡張属性を持ちます。
ファイルの作成 / データの書き込み	はい	ファイルが SharePoint 内に作成されている場合、ファイルシェア内にファイルを作成するには、この権限が必要です。
ディレクトリの作成 / データの追加	はい	フォルダーが SharePoint 内に作成されている場合、ファイルシェア内にフォルダーを作成するには、この権限が必要です。バージョン履歴を保存し、別のライブラリが同じファイルシェアに接続しないようにするために、コネクタはファイルシェア内に隠しフォルダーを作成します。
属性の書き込み	はい	SharePoint が列情報を Office ファイルに降格する場合、ファイル属性を書き込む必要があります。
拡張属性の書き込み	はい	Office ファイルは SharePoint の昇格および降格のプロセスに使用されるカスタム属性などの拡張属性を持ちます。
サブディレクトリとファイルの削除	はい	SharePoint 内の削除をファイルシェアに同期するには、この権限が必要です。
削除	いいえ	コネクタは接続されているルート フォルダーを削除しないため、この権限は不要です。

読み取り権限	はい*	*ファイルシェアからの NTFS 権限をコネクタ ライブラリに読み込む場合のみ、この権限が必要です。
権限の変更	いいえ	コネクタはファイルシェア内の権限情報を変更しないため、この権限は不要です。
所有権の取得	いいえ	コネクタはファイルまたはフォルダーの所有権を取得しようとしないため、この権限は不要です。

ローカル システム権限

次のローカル システム権限が DocAve 6 エージェントのインストール中に自動的に構成されます:

ユーザーは次のローカル システム グループのメンバーです。

- IIS WPG (IIS 6.0 の場合) または IIS IUSRS (IIS 7.0 の場合)
- パフォーマンス モニター ユーザー
- DocAve ユーザー (グループは自動的に作成され、そのグループは次の権限を持ちます):
    - HKEY LOCAL MACHINE¥SOFTWARE¥AvePoint¥DocAve6 のレジストリに対するフル コントロール
    - HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥EventLog6 のレジストリに対するフル コントロール
    - 通信証明書のフル コントロール
    - バッチ ジョブとしてログオン 権限 ([コントロール パネル] > [管理ツール] > [ローカル セキュリティ ポリシー] > [セキュリティの設定] > [ローカル ポリシー] > [ユーザー権利の割り当て] の順に進んでください。)
    - DocAve エージェント インストール先ディレクトリのフル コントロール権限
- ローカル管理者 (ソリューション ファイルをフロントエンド Web サーバーに展開するには、この権限が必要です。)

はじめに

SharePoint と DocAve プラットフォーム モジュールには、共通の機能があります。本ガイドでは、共通する機能のいくつかを説明していますが、主に DocAve モジュールに固有な機能を説明します。

本ガイドで説明されていない共通する機能の詳細については、SharePoint のヘルプを参照してください。

コネクタの起動に関する重要な情報については、以下のセクションを参照してください。

コネクタの起動

コネクタを起動してその機能にアクセスするには、以下の手順に従ってください。

1. DocAve にログインします。既にログインしている場合、**[DocAve]** タブをクリックします。**DocAve** タブのウィンドウの左側に、すべてのモジュールが表示されます。
2. **[ストレージ最適化]** をクリックして、ストレージ最適化モジュールを表示します。
3. **[コネクタ]** をクリックしてこのモジュールを起動します。

図 1: DocAve モジュールの起動ウィンドウ

ユーザー インターフェイスの概要

[コネクタ] をクリックすると、ストレージ最適化パッケージ ユーザー インターフェイスは **コネクタ** タブがアクティブな状態で起動します。このタブに、お使いのファーム環境が表示され、ここからコネクタの機能のリストに簡単にアクセスすることができます。

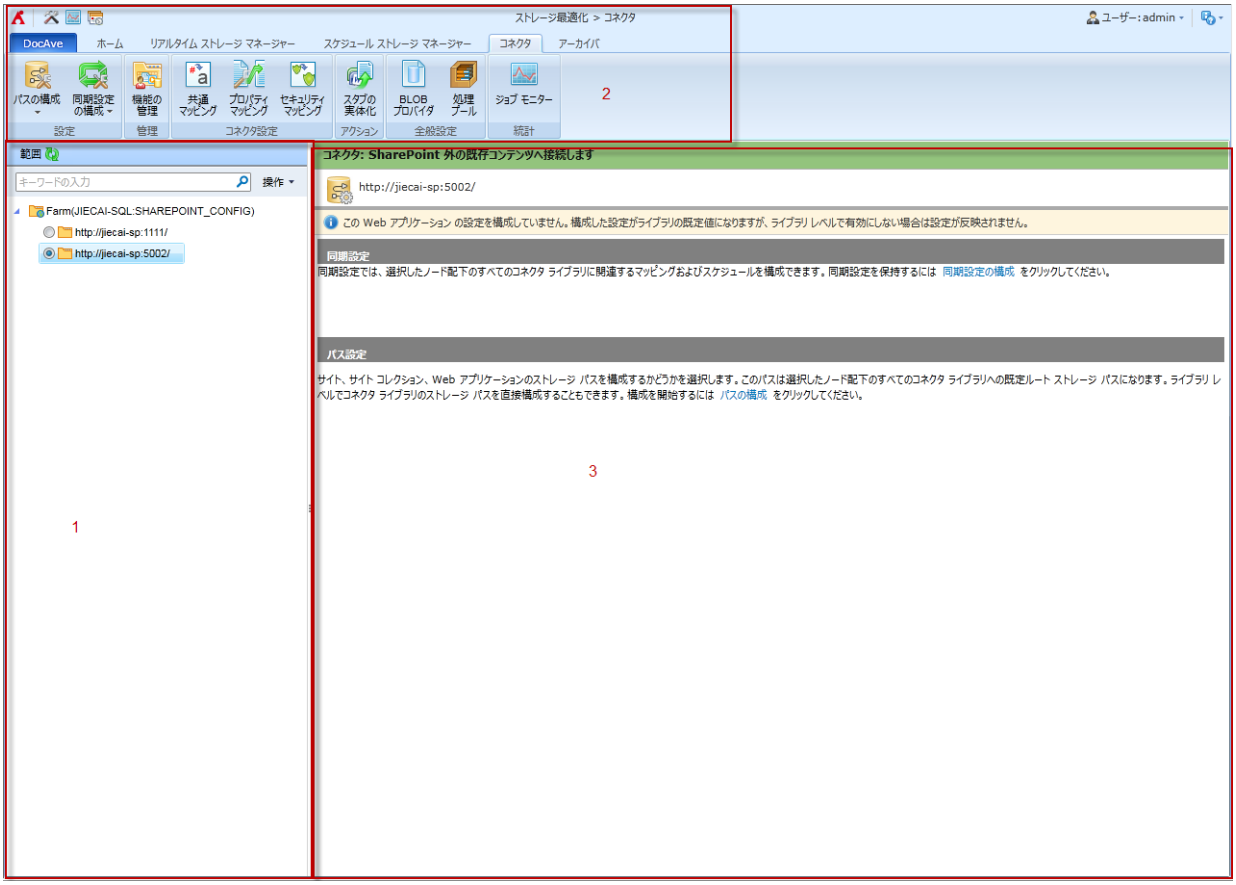

図 2: コネクタのユーザー インターフェイス

1. **SharePoint ツリー** (**範囲** パネル) にお使いファームにあるすべてのコンテンツが表示されます。このパネルを使用し、アクションを実行する対象のコンテンツを選択します。コンテンツを選択すると、**リボン** に新しいタブと機能が表示されます。

2. **リボン** には、選択されているノードについて実行可能なアクションとウィザードが表示されます。SharePoint ツリーでの選択によって、表示される内容が変わります。

3. **ワークスペース** には、DocAve 製品で実行されるアクションの構成中に使用されるフォーム ベースのコンテンツがすべて表示されます。

ファームおよびノードの選択

ファームおよびノードの選択:

1. 左側の **[範囲]** パネルから、関連する SharePoint コンテンツを含むファームをダブルクリックします。
2. コンテンツの左側のチェックボックスをオンにして、操作を実行する関連のコンテンツを選択します。
3. コンテンツを選択した後に、ガイドで説明されている手順を実行することができます。

コネクタを構成および展開するための基本的な手順

以下の手順は、コネクタを正しく使用するために必要な基本手順です。リンクをクリックすると、それぞれのセクションに移動します。

1. BLOB プロバイダの構成
2. BLOB プロバイダの有効化
2. マッピング設定の構成コネクタには既定のマッピング設定が付属しているため、これらの設定の構成は必須ではありません。
3. コネクタ ソリューションの展開
4. コネクタ機能のアクティブ化
5. コネクタ機能の使用:
    - SharePoint でコネクタ ライブラリの作成 (オプションの手順です。既存の SharePoint ドキュメント ライブラリ も接続することができます。)
    - SharePoint とストレージ パスの間の接続の作成
6. コネクタ ライブラリの保持

BLOB プロバイダの構成

バイナリ ラージ オブジェクト (BLOB) は、SQL コンテンツ データベースに保存される非構造データ (ファイル、添付ファイルなど) です。既定では、SharePoint にアップロードされるファイルまたは添付ファイルは、コンテンツ データベースに BLOB として保存されます。BLOB プロバイダを構成すると、BLOB をコンテンツ データベースから指定した外部ストレージに外部化することができます。BLOB プロバイダ機能は、SharePoint データベースのトラフィックを遮断し、BLOB トラフィックのすべてを外部の BLOB ストレージにリダイレクトします。データのスタブは、SharePoint に保持されます。

SharePoint ユーザーおよびアプリケーションに透明性を提供するために、リモート BLOB ストレージ (RBS) または外部 BLOB ストレージ (EBS) は SharePoint インターフェイス経由でファイルシェア コンテンツを表示するために使用されます。EBS は、Microsoft SharePoint Server 2007 および 2010 が提供するインターフェイスで、RBS は、Microsoft SQL サーバー用の追加機能パックとして組み込まれる標準化された高度なプログラミング インターフェイスのセットです。DocAve コネクタを使用するには、これら 2 つの BLOB プロバイダの 1 つを有効にする必要があります。エージェントのインストール中に RBS バイナリがインストールされるため、RBS を BLOB プロバイダとして使用することをお勧めします。

コネクタの目的のため、BLOB プロバイダは指定されたファイルシェアを使って、SharePoint ライブラリのファイルのストレージを構成するために使用されます。また、BLOB プロバイダは、スタブ データベースを作成し、指定したファームまたはノードでプロバイダを有効します。

***注意:** RBS プロバイダはサード パーティ プロバイダであるため、SQL Server 2008 R2 Enterprise エディションが必要です。RBS は、Microsoft SQL Server 2005 ではサポートされていません。

機能	RBS	EBS
BLOB ストレージの範囲	RBS はコンテンツ データベース レベルと Web アプリケーション レベルでは使用できます。それぞれのコンテンツ データベースは、それぞれの BLOB ストレージを持つことができます。RBS の方が柔軟性に優れています。	EBS は、ファーム レベルでのみ使用できます。

機能	RBS	EBS
プロバイダ数	複数の RBS プロバイダを同じ SharePoint ファームに置くことができます。	SharePoint ファーム 1 つに対し、EBS プロバイダは 1 つのみです。
インターフェイス	管理対象。 RBS は、完全な .NET ベースのソリューションです。技術的な観点から言えば、RBS が .NET に極めてうまく適合します。	管理対象外。 EBS は、レガシーの COM インターフェイスに依存します。
BLOB を SQL サーバーストアから BLOB ストアに移行、またはその逆	Windows PowerShell	カスタム
SharePoint インターフェイス	SharePoint 2010 には、多くの Windows PowerShell コマンドが備えられており、これらのコマンドを使用して、RBS のインストールおよび構成を管理することができます。	なし

BLOB プロバイダの推奨事項

BLOB プロバイダを有効にする前に、BLOB プロバイダの構成について、以下の注意事項を必ずお読みください。

必須事項:

- ウィザードを開始します。RBS (DocAve エージェント) がお使いのファームの Web フロント エンドにインストールされていること、また、これらの Web フロント エンドがユーザーの方を向いているかどうかを確認します。

- 最適なパフォーマンスを得るためには、ファーム内にスタブ データベース用のデータベース サーバーを選択します。
- ファーム レベルで、EBS および RBS について、すべてのスタブ (ポインタ) を管理するように選択します。ファーム 1 つにつき、1 つのスタブ データベースとします。各コンテナに 100 万以上のアイテムが入ると予想される場合に限り、下位レベルの設定を適用します。
- 下位レベルでスタブ データベースを構成する場合には、継承を考慮してください。サブ データベースの継承については、サブ データベースの継承 を参照してください。
- RBS を有効にするスケジュールを構成し、拡大中のファーム用にプランを必ず作成します。

以下のことが起こらないように注意してください。

- エージェントのインストール中にサーバーが存在しない。Web フロントエンドで RBS/EBS のインストールに失敗する (ユーザー向きまたはアプリケーション向きのいずれも)。
- RBS ではなく EBS を選択するしかない。お使いの SQL サーバーのバージョンに応じて、適切なものを選択してください。必要に応じて、後で EBS から RBS にアップグレードすることができます。EBS から RBS へのアップグレードについては、DocAve 6 コントロール パネル リファレンス ガイド を参照してください。
- これらの構成を必要以上に最小単位に設定すること。簡単な管理を目指すこと: このデータベースはお使いのファーの障害回復プランに含まれるため、データベースが多すぎると、フェールオーバーが必要以上に複雑になる可能性があります。
- スケジュール構成をスキップする。ファームが拡大している中で、新しいコンテンツ データベースが追加され、ストレージ最適化ソフトウェアの他の部分と連携させることが必要になります。

BLOB 外部化のベスト プラクティスについては、AvePoint ホワイトペーパーを参照してください。http://www.avepoint.com/assets/pdf/sharepoint_whitepapers/Optimize_SharePoint_Storage_with_BLOB_Externalization.pdf

BLOB プロバイダの有効化

サーバーで BLOB プロバイダを有効にするには、以下の手順に従ってください。

***注意:** エージェントが正しくインストールされていない Web フロント エンドで RBS / EBS プロバイダを有効にする場合は、スタンドアロン エージェント ツールを使用する必要があります。これらのツールによる BLOB プロバイダの有効化の詳細については、付録 E: エージェント ツールによる BLOB プロバイダの有効化 を参照してください。

1. BLOB プロバイダにアクセスするには、**[全体設定]** グループで、**[コネクタ]** タブ > **[BLOB プロバイダ]** タブをクリックします。**BLOB プロバイダ** ページがワークスペースに表示されます。

3. RBS バイナリ (DocAve エージェント) が既にインストールされており、お使いのファームで Web サービスを実行しているすべての SharePoint サーバー上で有効になっていることを確認します。これには、すべてのアプリケーションおよびインデックスも含まれます。

   - **BLOB プロバイダ バイナリのインストール** ページに、DocAve エージェントがインストールされているすべての Web フロントエンド サーバーに関する情報が表示されます。既定では、エージェントのインストール中に BLOB プロバイダがインストールされます。

   - 一部の BLOB プロバイダ バイナリがインストールされていない場合、**未インストール** が **BLOB プロバイダ バイナリ** 列に表示されます。必要に応じて、**[インストール]** をクリックして該当の BLOB プロバイダをインストールします。

4. 終了したら、**[次へ]** をクリックします。**スタブ データベースの構成** ページが表示されます。

5. ノードの左側にあるチェックボックスを選択して、スタブ データベースにリンクさせたいノードを選択します。簡単に使用するため、ファーム全体に 1 つのスタブを構成することをお勧めします。

6. スタブ データベースにリンクさせたいノードを選択したら、リボンの **[管理]** グループの **[構成]** をクリックします。

7. スタブ データベース用に、ファーム内のデータベース サーバーを選択します。スタブ データベース管理およびメンテナンスを容易にするために、SharePoint 全体管理で使用される既定のデータベース サーバーを選択することをお勧めします。

a. **スタブ データベースの構成** - **データベース サーバー** (スタブ データベースがある場所) とスタブ データベースの **データベース名** を指定します。

***注意:** コンテンツ データベースのスタブ データベースを構成し保存した後に、構成を変更することはできません。

b. **認証** - データベースにアクセスする認証方法を選択します。

- **Windows 認証 (推奨)** (既定オプション) – この方法を使用し、Windows を使用するユーザー ID を確認します。
- **SQL 認証** - 特定の SQL サーバーのアカウントおよびパスワードに従ってユーザーを確認します。

8. 終了したら、**[OK]** をクリックして **BLOB プロバイダの有効化** ページに進みます。**BLOB プロバイダの有効化** ページに、DocAve エージェントがインストールされているファームの **BLOB プロバイダの状態** が表示されます。

9. BLOB プロバイダを有効にするには、**[アクション]** 列で **[構成]** をクリックし、有効にしたい BLOB プロバイダに該当する以下の説明に従ってください。なお、SharePoint 2010 環境を使用している場合、ファームの RBS を有効にすることをお進めします。

   RBS を有効にするには、以下の手順に従ってください。

   - **[ファームの RBS の有効化]** の下で、ファーム名をクリックしてツリーを展開します。必要に応じて、**[有効にする]** 列のチェックボックスを選択すると、RBS の状態を表示し、選択したコンテンツ データベースで RBS を有効にします。
   - 新しく追加されたすべてのコンテンツ データベース (BLOB プロバイダの構成後に追加されたコンテンツ データベース) の RBS を有効にするには、**[新規コンテンツ データベースを含む]** 列で **[有効にする]** を選択します。この機能を使用するには、**[スケジュール]** フィールドでスケジュールを構成する必要があります。
   - 新しく追加されたコンテンツ データベースを確認するには、**スケジュール** (**[ファームの RBS の有効化]** を選択すると使用可能になります) を構成します。構成したスケジュールに従って、コネクタは検索を実行して、新しいコンテンツ データベース用のファームを探します。新しいコンテンツ データベースが見つかると、コネクタはこのコンテンツ データベースで RBS を有効にします。

***注意:** スタブ データベース ルールは、コンテンツ データベースが該当する Web アプリケーションに追加された直後に、新しく追加されたコンテンツ データベースに適用されます。

***注意:** EBS および RBS の両方が有効になっている場合、RBS が使用されます。

10. BLOB プロバイダの構成が終了したら、**[OK]** をクリックして構成を保存します。**[次へ]** をクリックして、**概要** ページに進みます。

11. **概要** ページには、すべてのスタブデータベースの情報が表示されます。

- 構成を編集するには、表見出し行にある **[編集]** をクリックします。
- 構成が終了したら、**[完了して実行]** をクリックして構成を保存すると、ただちに該当する BLOB プロバイダが有効 / 無効になります。

  ***注意:** スケジュールを使用せずに RBS プロバイダを有効にするには、**[完了して実行]** をクリックして、すぐに RBS プロバイダを有効にします。**[完了]** をクリックすると、すぐに EBS が有効になりますが、RBS プロバイダ構成のみを保存します。サーバーのスキャンが実行されるまで、RBS BLOB プロバイダは有効にはなりません。

マッピング設定の構成

前述のように、コネクタでは、SharePoint で使用するファイル シェアを構成するために、いくつかの手順が必要です。コンテンツを配信する車両としての RBS を構成した後に、SharePoint とファイルシェアの間に存在する不一致を解決する必要があります。基本的に、SharePoint とファイル シェアは、異なる既定のメタデータ スタイル、セキュリティ レベル、および名前付け / パス規則を持つ 2 つの異なるシステムです。

構成済みのマッピング設定によって、同期しているファイルおよびフォルダー (並びに、それらのメタデータおよびセキュリティ プロパティ) が SharePoint で構成される方法が決まります。コネクタ モジュールには既定のマッピング設定が含まれているため、これらの設定の構成は必須ではありません。

一般的に、**最も論理的なマッピングは既に構成されている可能性があります。**このセクションでは、SharePoint とファイルシェアの間の一般的な相違点を解決するように構成されている既定の設定について説明します。

共通マッピング

SharePoint では、128 文字以上のファイル名またはフォルダー名、あるいは、無効な文字が含まれているファイル名はサポートされません (" # % & * :< > ?¥ / { | } ~ など)。既定では、128 文字以上のファイル名またはフォルダー名は、SharePoint と同期された後、127 文字までにプルーニングされます。無効な文字を含むファイル名の場合、SharePoint に同期された後に、無効な文字はアンダースコア (_) に置き換えられます。

既定では、DocAve は編集したり、削除することができない **DefaultConnectorConmmonSetting** という名前の既定の共通マッピングを適用します。新しい共通マッピングを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. **[コネクタ]** タブから、**[コネクタ設定]** グループの **[共通マッピング]** を選択します。**共通マッピング** ページが表示されます。ここには、既存の共通マッピング プロファイルがすべて表示されます。
2. 新しいマッピング ルールを作成するには、**[管理]** グループの **[作成]** をクリックします。**作成共通マッピング** ページがワークスペースに表示されます。
3. 共通マッピングについて、以下の設定を構成します。
    a. **共通マッピング名** – 共通マッピングの名前および説明 (オプション) を入力します。

b. **文字数制限の設定** – コネクタ ライブラリに表示されるフォルダー / ファイル名の最大文字数を指定します。フォルダー / ファイル名の長さは、1 ～ 127 文字の範囲で定義することができます。フォルダー / ファイル名が定義した長さを超える場合、定義されている長さに従って、システムが余分な文字を自動的に削除 (プルーニング) して保存します。フォルダー / ファイル名は、次のルールに基づきプルーニングされます。

- ファイル名のプルーニングについて、ファイル拡張子の文字は、総文字数に含まれます。ファイル名だけがプルーニングされます。例えば、最大文字数として 7 が指定されている場合、**abcde.exe** という名前のファイル名は、**abde.exe** にプルーニングされます。
- DocAve は、ファイル名の真ん中からプルーニングを開始します。ファイル システムの中では、ドキュメントのバージョンは一般的に、開始文字 (“Copy of”) および最後の文字 (“version1” または “_1”) で識別されます。DocAve は、ファイル名の真ん中から文字をプルーニングして、これらの識別文字が保持されるようにします。
- DocAve がファイル名をプルーニングした後に、SharePoint に同じ名前のファイルが既に存在する場合、数値の接尾辞がプルーニング後のファイル / フォルダーの元の名前に付加されます。

c. **禁則文字の置き換え設定** – SharePoint とコンテンツを同期する場合、フォルダー / ファイル名に含まれる禁止文字は、適切な文字に置き換えられます。既定では、すべての禁止文字は、アンダースコア (_) に置き換えられます。

プロパティ マッピング

ファイル システムから SharePoint にアップロードされたファイルがそのメタデータを失う場合、コネクタは、すべてのファイル システムのメタデータを読み取り、完全忠実にそれらを SharePoint に提供します (保存済みのすべてのメタデータ)。プロパティ マッピングでは、ファイル システム プロパティを SharePoint メタデータにマッピングするルールを構成できるため、メタデータが保存されます。

既定では、DocAve は編集したり、削除することができない **DefaultConnectorPropertySetting** という名前の既定の共通マッピングを適用します。新しいプロパティ マッピングを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. **[コネクタ]** タブから、**[コネクタ設定]** グループの **[プロパティ マッピング]** を選択します。**プロパティ マッピング** ページが表示されます。ここには、既存のプロパティ マッピング プロファイルがすべて表示されます。
2. 新しいプロパティ ルールを作成するには、**[管理]** グループの **[作成]** をクリックします。**プロパティ マッピングの作成** ページがワークスペースに表示されます。
3. プロパティ マッピングについて、以下の設定を構成します。
    a. **プロパティ マッピング名** – プロパティ マッピングの名前および説明 (オプション) を入力します。
    b. **プロパティ マッピング** – ファイル システム プロパティを SharePoint プロパティにマッピングします。表の上の **[ファイルシェア ライブラリ]** タブまたは **[メディアシェア ライブラリ]** タブをクリックし、該当するプロパティを設定します。既定では、ファイル システム プロパティが元のプロパティ名で SharePoint プロパティにマッピングされます。

セキュリティ マッピング

ファイル システムから SharePoint にアップロードされたファイルがその権限設定を失う場合、コネクタは、すべてのドキュメントおよびファイル シェア レベルの権限を読み取り、それらを SharePoint に読み込みます。セキュリティ マッピングでは、ファイル システム権限を SharePoint 権限にマッピングするルールを構成することができます。

権限のマッピングを構成することができますが、独自のオブジェクトレベル権限を適用することは SharePoint において推奨されるベストプラクティスではありませんので、ご注意ください。作成時に、ライブラリがファイル システム セキュリティを再利用するか、または単に SharePoint サイトから継承するかどうかを決めることができますが、後者を強くお勧めします。

既定では、DocAve は編集したり、削除することができない **DefaultConnectorSecuritySetting** という名前の既定の共通マッピングを適用します。新しいセキュリティ マッピングを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. **[コネクタ]** タブから、**[コネクタ設定]** グループの **[セキュリティ マッピング]** を選択します。**セキュリティ マッピング** ページが表示されます。ここには、既存のセキュリティ マッピング プロファイルがすべて表示されます。

2. 新しいプロパティ ルールを作成するには、**[管理]** グループの **[作成]** をクリックします。**セキュリティ マッピングの作成** ページがワークスペースに表示されます。

3. セキュリティ マッピングについて、以下の設定を構成します。

    a. **セキュリティ マッピング名** - セキュリティ マッピングの名前および説明 (オプション) を入力します。

    b. **セキュリティ マッピング -** ファイル システム権限を SharePoint 権限にマッピングします。ドロップダウン リストから SharePoint 権限を選択して、それを該当するファイル システム権限に適用します。

4. 権限マッピング用に、新しい SharePoint 許可レベルを作成するには、**[新規 SharePoint アクセス権限レベル]** をクリックします。ポップアップ ウィンドウに、既定の SharePoint アクセス許可レベルが表示されます。既定のアクセス許可レベルは、**投稿、デザイン、フル コントロール、なし、閲覧、**および**表示のみ** です。これらの既定の SharePoint アクセス許可レベルを、編集および削除することはできません。

5. **[管理]** グループの **[作成]** をクリックします。**SharePoint アクセス許可レベルの作成** ページが表示されます。新しい SharePoint アクセス許可レベルを作成するには、以下の設定を構成します。

    - **名前と説明** – SharePoint アクセス許可レベルの名前および説明 (オプション) を入力します。

    - **権限** – 該当するチェック ボックスをクリックして、SharePoint アクセス許可レベルの詳細権限を選択します。**[すべて選択]** を選択して、すべての権限を含むようにします。

6. 終了したら、**[OK]** をクリックします。新しく作成された SharePoint アクセス許可レベルは、**SharePoint アクセス許可レベルの管理** ページに一覧表示され、**SharePoint 権限** は **セキュリティ マッピングの作成ページ** のドロップダウン リストに表示されます。

コネクタ ソリューションの展開

DocAve でコネクタ機能を使用するには、まずお使いの SharePoint ファームに DocAve コネクタ ソリューションを展開する必要があります。展開できるコネクタ ソリューションは、**SP2010ConnectorContentLibrary.wsp** および **SP2010ConnectorMediaLibrary.wsp** の 2 つです。DocAve コネクタ ソリューションをインストールして、展開すると、コネクタ機能がサイト コレクションの機能リストに一覧表示されます。使用するコネクタ機能に応じて展開するソリューションを選択してください。

- **SP2010ConnectorContentLibrary** ソリューションには、DocAve コンテンツ ライブラリ機能および DocAve コネクタ ライブラリ変換機能が含まれます。
- **SP2010ConnectorMediaLibrary** ソリューションには、DocAve メディアシェア ライブラリ機能が含まれます。

DocAve コネクタ ソリューションを展開するには、以下の手順に従ってください。

1. **[DocAve]** タブ > **[コントロール パネル]** > **[ソリューション マネージャー]** の順で移動します。
2. **[ファーム]** ドロップダウン リストから展開先ファームを選択します。
3. チェックボックス (**SP2010ConnectorContentLibrary.wsp** および **SP2010ConnectorMediaLibrary.wsp**) をオンにします。**[アクション]** グループの **[インストール]** をクリックします。
4. ソリューションが SharePoint ファーム上にインストールされたら、**SP2010ConnectorContentLibrary.wsp** および **SP2010ConnectorMediaLibrary.wsp** のチェックボックスを再度オンにし、**[アクション]** グループの **[展開]** をクリックします。
5. ソリューションが正常に展開されると、ソリューションの状態が **状態** 列に **展開済み** として表示されます。

ソリューションに実行する他の操作については、DocAve 6 コントロール パネル参照ガイド の **ソリューション マネージャー** セクションを参照してください。

次のセクションでは、コネクタ機能をアクティブにする方法について説明します。

コネクタ機能のアクティブ化

コネクタ ソリューションが展開されると、DocAve ユーザー インターフェイスを介して、SharePoint オブジェクト (Web アプリケーション、サイト コレクション、サイト、およびコネクタ ライブラリを含む) のコネクタ設定を構成することができます。

SharePoint ユーザー インターフェイスを介して、コネクタ ライブラリのコネクタ設定を構成する場合、コネクタ ソリューションが展開された後に、コネクタ機能を DocAve または SharePoint を介してアクティブにする必要があります。DocAve でコネクタをアクティブにすると、ユーザーは一度に複数のサイト コレクションの機能をアクティブ化 / 非アクティブ化することができますが、SharePoint では、ユーザーはサイト コレクションを 1 つずつアクティブ化 / 非アクティブ化する必要があります。コネクタ機能を有効にするには、以下の対応するセクションを参照してください。

SharePoint を介してコネクタをアクティブ化

SharePoint を介してコネクタをアクティブにするには、以下の手順に従ってください。

1. SharePoint で、コネクタをアクティブにするサイト コレクションにアクセスします。**[サイトの操作]** > **[サイトの設定]** > **[サイト コレクションの機能]** の順に進みます。**サイト コレクションの機能** ページが表示されます。

2. **DocAve コネクタ ライブラリの変換**、**DocAve ファイルシェア ライブラリ**、および **DocAve メディアシェア ライブラリコネクタ機能** の隣にある **[アクティブ化]** をクリックします。選択したサイト コレクションの機能を有効にします。

   ***注意: DocAve コネクタ ライブラリの変換** 機能は、SharePoint ドキュメント ライブラリ、フォーム ライブラリ、画像ライブラリ、およびメディア ライブラリを DocAve コネクタ ライブラリに変換するために使用されます。これらの 4 つの SharePoint ライブラリがコネクタ ライブラリに変換された後に、これらの 4 つのSharePoint ライブラリにコネクタ設定を適用することができます。

3. コネクタ機能をアクティブにすると、機能の状態は **状態** 列に **アクティブ** として表示されます。

DocAve を介してコネクタをアクティブ化

DocAve を介してコネクタをアクティブ化するには、以下の手順に従ってください。

1. **[コネクタ]** タブから、**[機能]** グループの **[機能の管理]** をクリックします。**機能の管理** ページが表示されます。
2. **[表示]** グループでアクティブにするコネクタ機能 (**ファイルシェア ライブラリ**、**メディアシェア ライブラリ** または **ライブラリ変換**) を選択します。選択した機能について、以下の設定を構成します。
   a. **ツリーの選択** – コネクタ機能をアクティブにするターゲットの場所を選択します。
   b. SharePoint ファーム ツリーをサイト コレクション レベルまで展開し、**[アクション]** 列の **[アクティブ化]** をクリックすると、選択したサイト コレクションのコネクタ機能がアクティブになります。または、Web アプリケーション レベルで **[すべてアクティブ化]** をクリックすると、選択した Web アプリケーション レベルの下のサイト コレクションのコネクタ機能がすべてアクティブになります。
3. コネクタ機能をアクティブにすると、該当するサイト コレクション機能の状態 (**状態** 列) は、**非アクティブ** から **アクティブ** に変わります。

SharePoint とストレージ パスの間の接続の作成

DocAve コネクタを使用して、複数の SharePoint ライブラリと複数のファイルシェアまたはクラウド ストレージの間の接続を作成することができます。接続は、Web アプリケーション、サイト コレクション、サイトまたはライブラリ レベルで行うことができますが、エンドユーザーの場合はライブラリ レベルでこの接続を行うのが最も一般的です。

なお、次の点に注意してください。

- ストレージ パス コンテンツを直接 SharePoint ライブラリに接続するには、ライブラリ レベル でコネクタ パスを構成します。

  これは、既存のファイルシェアを持つユーザーのチーム サイトを有効にする場合に特に一般的です。

- Web アプリケーション、サイト コレクション、またはサイト レベル または複数のライブラリをファイルシェアに接続する場合、DocAve コネクタはファイルシェアで選択したファーム ノードの階層を反映するサブフォルダーを作成します。

  これは、エンタープライズ Web アプリケーションの個人用サイトを有効にする場合に特に一般的ですが、下のレベルにホーム ドライブまたはファイルシェアを維持します。

接続が構成されたレベルに関係なく、DocAve コネクタ ライブラリ (ファイルシェア ライブラリ / メディアシェア ライブラリ) および 4 つの SharePoint ライブラリ (キュメント ライブラリ / フォーム ライブラリ / 画像ライブラリ / メディア ライブラリ) は、実際にストレージ パスに接続されます。

接続が行われ、同期ジョブが実行されると、SharePoint ライブラリにアップロードされたコンテンツは、接続されたストレージ パス (SharePoint SQL データベース) に保存されます。SQL データベースにあるのはスタブで、実際のデータではありません。ただし、SharePoint ライブラリ内のコンテンツは、実際のデータがまだ SQL に保存されているかのように、通常通りに表示され、機能します。

詳細の表示

Web アプリケーション、サイト コレクション、およびサイト レベル用のコネクタ設定には、**パスの構成** および **同期設定の構成** の2 つがあります。

***注意: パスの構成** のみ、ライブラリ レベルでサポートされます。同期設定はライブラリ レベルでは構成できないため、**同期設定の構成** オプションはライブラリで使用できません。

- **パスの構成** ウィザードでは、ストレージ パスを構成することができ、ストレージ パスを継承させたいライブラリを有効にすることができます。
- **同期設定の構成** ウィザードでは、マッピング設定およびスケジュール設定などの同期設定を構成することができます。

コネクタ パスの構成

SharePoint ライブラリをストレージ パスに接続するには、以下の手順に従ってください。

1. **[範囲]** パネルから、ストレージ パスに接続するオブジェクトを選択します。
2. **[管理]** グループの **[パスの構成]** ドロップダウンをクリックして、**[パスの管理]** を選択します。
3. 選択したレベルに従って、以下の該当するセクションを参照してください。

Web アプリケーション、サイト コレクション、またはサイト レベル

***注意:** 既定では、Web アプリケーション、サイト コレクション、およびサイト レベルは、ネットシェア ストレージのみをサポートします。DocAve コネクタはネットシェアだけでなく、ライブラリ レベル でクラウド ストレージおよび HDS Hitachi コンテンツ プラットフォーム ストレージもサポートします。

Web アプリケーション、サイト コレクション、またはサイト レベルでコネクタ設定を構成するには、以下の手順に従ってください。

1. ノードを選択するには、コネクタ パスの構成 の手順に従ってください。
2. **ストレージ パスの構成** が表示されます。お使いの SharePoint 環境で希望のノードに接続する物理ストレージ パスを構成します。継承の詳細情報については、継承設定の構成 を参照してください。
    a. **管理パス** (Web アプリケーション レベルのみ) – コネクタ設定を構成する場所となる管理パスを指定します。選択した管理パスの下のサイト コレクションおよびサイトは、Web アプリケーションからコネクタ設定を自動的に継承します。選択した管理パスの下のライブラリは、**ライブラリの有効化** の手順で有効になっている場合のみ、Web アプリケーションからコネクタ設定を

自動的に継承します。選択した管理パスに属しない他のオブジェクトは、Web アプリケーションからコネクタ設定を継承しません。

管理パスを指定したら、**[この管理パスを追加]** をクリックして、その管理パスを追加します。いくつかの管理パスを追加することができます。

b. **ストレージ タイプ** – ストレージ デバイス タイプを選択します。Web アプリケーション、サイト コレクション、およびサイト レベルでは **ネットシェア** ストレージのみ、サポートされます。

- **ネットシェア** – 指定したノードに作成されたコネクタ ライブラリにコンテンツを同期するネットシェア パスを指定します。そして、この既存のネットシェア パスへの接続を確立するための **ユーザー名** と **パスワード** を入力します。SharePoint でアップロードされたデータもこのネットシェア パスに書き込まれて保存されます。このパスは、選択したノードの下に作成されたすべてのコンテンツ ライブラリの既定のルートストレージ パスになります。**[詳細]** オプションを有効にすると、**[拡張パラメータ]** オプションが表示されます。**拡張パラメータ** オプションでは、2 つのプロパティを追加して、ストレージ パスの長さと認証方法をそれぞれ管理することができます。

3. 終了したら、**[次へ]** をクリックします。**ライブラリの有効化** ページが表示されます。

4. **ライブラリの有効化** – 右側のツリーを使用し、ライブラリ レベルまで移動します。ドキュメント ライブラリ、ファイルシェア ライブラリ、メディアシェア ライブラリのみが表示されます。コネクタ設定を有効にするライブラリを選択します。ツリーで既にコネクタ設定を構成しているライブラリのチェックボックスは使用できません。

5. 終了したら、**[次へ]** をクリックします。**概要** ページが表示されます。

6. **概要** ページでコネクタ設定をレビューおよび編集します。**[戻る]** をクリックすると構成を変更し、**[完了]** をクリックすると構成を完了し、**[キャンセル]** をクリックすると終了します。**[完了]** をクリックすると、*UNC Path¥Site Collection Name¥Site Name¥Library Name* の形式で、**UNC パス** フィールドで指定したストレージ パスにフォルダーが生成されます。それぞれのライブラリのコンテンツは、ストレージ場所の該当するパス / フォルダーに保存されます。

ライブラリ レベル

ほとんどのエンドユーザーの場合、ライブラリ レベルでコネクタ ストレージ パスを構成して、直接 SharePoint ライブラリに既存のファイルシェア コンテンツを接続します。DocAve コネクタは、ネットシェアだけでなく、ライブラリ レベルでクラウド ストレージおよび HDS Hitachi コンテンツ プラットフォーム ストレージもサポートします。

権限のマッピングを構成することができますが、独自のオブジェクトレベル権限を適用することは SharePoint において推奨されるベストプラクティスではありませんので、ご注意ください。作成時に、ライブラリがファイル システム セキュリティを再利用するか、または単に SharePoint サイトから継承するかどうかを決めることができますが、後者を強くお勧めします。

***注意:** ライブラリ レベルで使用可能なコネクタ オプションは、**パスの構成** のみです。**同期設定の構成** オプションは、ライブラリ レベルで作成する構成には使用できません。

***注意:** 既存の SharePoint ドキュメント ライブラリ、フォーム ライブラリ、画像ライブラリ、またはメディア ライブラリをストレージ パスに接続する場合、既存の SharePoint ライブラリ内のすべてのコンテンツは、ストレージ パスに接続を行う前にライブラリへアップロードされたコンテンツもストレージ パスに移動されます。

ライブラリ レベルでのコネクタ設定を、SharePoint から構成することもできます。詳細については、SharePoint インターフェイスを使用したコネクタ ライブラリ設定の構成 を参照してください。

DocAve にライブラリ レベルでコネクタ パスを構成するには、以下の手順に従ってください。

1. ノードを選択するには、コネクタ パスの構成 の手順に従ってください。なお、ツリーで既にコネクタ設定を構成しているライブラリのチェックボックスは使用できません。
2. **設定とパス** ページが表示されます。
3. ストレージ パスが既にサイト レベルで構成されている場合、**[親から継承したパスを使用する]** が既定で選択されます。このオプションをオンの場合に、ライブラリは親サイトからストレージ パスを継承します。**UNC パス** フィールドと **ユーザー名** フィールドは変更できませんが、**パスワード** は必要です。このオプションをオフにすると、ライブラリ用の特定のストレージ パスを指定することができます。親サイトがストレージ パスに設定されていない場合、このオプションは、ライブラリの設定ページでは使用できません。継承については、継承設定の構成 を参照してください。
4. ドロップダウン リストから **[ストレージ タイプ]** を選択します。

a. **ネットシェア** – このライブラリと同期しようとするパスを指定します。データを書き込むパスへの接続を確立するための **ユーザー名** と**パスワード** を入力します。**[詳細]** をクリックすると、**[拡張パラメータ]** オプションが表示されます。このオプションでは、ストレージ パスの長さや認証方法などの設定を管理することができます。拡張パラメータ オプションで使用できるプロパティの詳細については、DocAve 6 コントロール パネルの参照ガイド 内のネットシェア セクションを参照してください。

b. **HDS Hitachi コンテンツ プラットフォーム** – データが保存される **プライマリ ネームスペース アドレス** と、セカンダリの **ネームスペース アドレス** (オプション) を指定します。完全に一致するストレージ場所となる **ルート フォルダー** を入力します。そして、指定したネームスペースへの接続を確立するための**ユーザー名** と **パスワード** を入力します。**[詳細]** をクリックすると、**[拡張パラメータ]** オプションが表示されます。このオプションでは、追加設定を管理することができます。拡張パラメータ オプションで使用できるプロパティの詳細については、DocAve 6 コントロール パネルの参照ガイド 内の HDS Hitachi コンテンツ プラットフォーム セクションを参照してください。

c. **クラウド ストレージ** – ドロップダウン リストから **[クラウド タイプ]** を選択します。オプションは、**RackSpace クラウド ファイル、Windows Azure ストレージ、Amazon S3**、**EMC Atmos、**および **AT&T Synaptic** の 4 つです。

メディアシェア ライブラリを構成している場合、ストレージ タイプについて、もう 1 つ使用できるオプションがあります。

d. **WMS に関連付けられたネットシェア** – このオプションは、このパスに保存されたビデオを Windows Media サービスに接続します。**WMS に関連付けられたネットシェア** ストレージを使用することにより、ビデオを Windows Media サービスで再生することができます。なお、Windows Media サービスが既に **ネットシェア** パスに関連付けられる必要があります。

5. **エンドユーザーの権限** – 同期を実行できるエンドユーザーを指定するには、アクセス許可レベルを選択します。このオプションの下には、**フル コントロール、デザイン、投稿**、および **サイト コレクション管理者** の 4 つのアクセス許可レベルがあります。エンドユーザーは、これらの 4 つの権限のいずれかを持っていれば、同期を実行することができます。なお、既定では、**フル コントロール** および **サイト コレクション管理者** が選択されます。

6. **ファイル システムから権限の読み込み** – 既定では、ライブラリは親サイトから権限を継承します。このオプションを選択すると、親サイトから継承したライブラリ権限が解除されます。代わりに、ストレージ パスの権限は同期ジョブを実行した後にライブラリに同期されます。このオプションは **ネットシェア** および **WMS に関連付けられたネットシェア** ストレージ タイプのみで使用することができます。

    - **ルート フォルダーの権限のみを読み込む** – このオプションを選択すると、親サイトから継承したライブラリ権限が同期後に解除されます。ライブラリ権限は、ストレージ パス権限 (つまり、ストレージ パスの権限) のルート フォルダーによって置き換えられます。ライブラリの下のファイルおよびフォルダーは、ライブラリから権限を継承します。権限は、最初の同期実行中にのみ適用されます。

    - **アイテムの権限をすべてファイル システムから読み込んで保持する** – このオプションを選択すると、親サイトから継承したライブラリ権限、およびライブラリから継承したアイテム (フォルダー / ファイル) 権限も同期後に解除されます。ストレージ パスのルートフォルダーおよびサブフォルダー権限は、ライブラリに同期されます。権限は、アイテムの SharePoint への最初の同期実行中にのみ適用されます。

7. **ファイル システムからメタデータを読み込む** – ファイルとフォルダーをメタデータから読み込む場合、ファイル システムからメタデータを読み込むかどうかを指定します。なお、メタデータは、SharePoint との最初の同期実行中にのみ読み込むことができます。このオプションは **ネットシェア** および **WMS に関連付けられたネットシェア** ストレージ タイプのみで使用することができます。

8. コネクタ SDK は、メタデータをファイル システムから接続パスに保存されている Excel ファイルにエクスポートするための API を提供します。ファイル システムから Excel ファイルにメタデータをエクスポートし、**[ファイル システムからメタデータを読み込む]** オプションを有効にすると、Excel ファイルに保存されたメタデータが読み込まれます。これにより、同期ジョブが大はばに高速化されます。適切な API を呼び出して、Excel ファイルにメタデータをエクスポートする方法については、DocAve コネクタ SDK ユーザー ガイドを参照してください。この機能は **ネットシェア** および **WMS に関連付けられたネットシェア** でのみサポートされます。

9. **名前の一致** – ファイルおよびフォルダー名をコネクタ ライブラリおよびストレージ パスに一致させるかどうかを指定します。

    - このオプションを無効にすると、ファイル名は、マッピング ルールに従って、同期中に SharePoint で変更されます。ストレージ パス内のファイル名は変更されません。

- このオプションを有効にすると、ストレージ パス内のファイル名は SharePoint 内のファイル名と一致します (同期後)。

10. **ファイル サイズ制限 – リンク サイズの大きいファイルを許可する (2GB 以上)** を選択すると、2GB 以上のデータをストレージ デバイスからリンクし、ストレージ デバイスと SharePoint の間で同期させることができます。

    ***注意:** SharePoint の制限により、2GB 以上のアイテムの場合、アップロードできるリンクは 1 つだけです。2GB 以上のファイルの場合、SharePoint でいくつかの問題が発生する可能性があります。

    - サイズの大きいファイルのコンテンツ タイプを変更することができない。
    - サイズの大きいファイルのバージョンを生成すると、SharePoint のリンクは 1 つだけになる。サイズの大きいファイルのバージョンは、接続されたパスに生成されない。
    - サイズの大きいファイルは、SharePoint のクロール中にインデックスに含まれない。
    - サイズの大きいファイルをエクスプローラ ビューでコピー / 削除することができない。

メディアシェア ライブラリを構成する場合、さらに **プレーヤー**、**サムネイル設定**、および **リッチ テキスト設定** の3つのコネクタ設定を構成します。

1. **プレーヤー** – メディア プレーヤーの設定を構成します。
    - **プレーヤー サイズ** – プレーヤーのスクリーン サイズをカスタマイズします。
    - **自動再生を有効にする** – ビデオ アイコンがクリックされると、ビデオの自動再生を有効にします。
2. **サムネイル設定** – **[サムネイル サイズをカスタマイズする]** オプションを有効にすると、サムネイルの値を指定することができます。50～250 ピクセルのサイズを指定します。
3. **リッチ テキスト設定** – この機能では、ビデオを再生するためのボタンを **リッチ テキスト タイプ** 列に追加することができます。これは、現在のサイトにある各アイテム用のビデオを有効にする方法です。この機能を使用する手順は、次のとおりです。
    a. **メディアシェア ライブラリの設定** ページで、**[全サイトでビデオ プレーヤーのリッチ テキストを有効にする]** を選択します。**[保存]** をクリックして設定を保存します。

b. ターゲット サイト内のリストにアクセスし、リストで列を作成します。**列の作成** ページで、**[複数行テキスト]** および **[拡張リッチ テキスト (画像、表、ハイパーリンクを含むリッチ テキスト)]** を選択します。

c. リスト内のアイテムを選択し、**アイテム** ページで **[管理]** グループにある **[アイテムの作成]** をクリックします。**アイテムの編集** ページが表示されます。作成された列をクリックし、**[テキストの書式設定]** > **[HTML]** > **[リッチ テキスト設定]** の順に移動します。**プレーヤー設定** ページが表示されます。

d. このページで、**[ビデオへのリンク]**、**[プレーヤー タイプ]**、および **[プレーヤー サイズ]** を含むリッチ テキスト設定を構成します。ビデオを自動的に再生したい場合は、**[自動再生を有効にする]** チェックボックスをオンにします。

***注意:** この列はアイテムにのみ存在し、ライブラリにはありません。

SharePoint インターフェイスを使用したコネクタ ライブラリ設定の構成

DocAve GUI または SharePoint のいずれかで、ライブラリ レベルの最初のコネクタ設定を構成することができます。ライブラリ レベルのみ、DocAve GUI および SharePoint の両方で構成することができます。他のレベル (Web アプリケーション、サイト コレクション、およびサイト) は、DocAve GUI でのみ構成することができます。

ライブラリ レベルのコネクタ設定オプションは、DocAve GUI と SharePoint でまったく同じです。ライブラリ レベル セクションでは、DocAve GUI からライブラリ レベルのコネクタ設定を構成する方法を説明しています。以下のセクションでは、 SharePoint からライブラリ レベルを構成する方法を説明します。

***注意:** ライブラリに DocAve GUI から適用された構成済みのコネクタ設定が含まれる場合、これらのコネクタ設定を SharePoint から編集することもできます。その逆も可能です。

SharePoint からコネクタ ライブラリを構成するには、以下の手順に従ってください。

1. お使いのストレージ パスを接続するライブラリにアクセスします。
2. **ライブラリ** ページにある **[ライブラリ]** タブをクリックして、**[設定]** グループの **[ライブラリ設定]** をクリックします。
3. **[ファイルシェア / メディアシェア ライブラリ用のファイルシェア / メディアシェア ライブラリ設定]** を選択するか、または、**[全体設定]** 列でドキュメント ライブラリフォーム ライブラリ、画像ライブラリ、また

はメディア ライブラリ の **[コネクタ設定]** を選択します。**ファイルシェア / メディアシェア ライブラリ設定** ページが表示されます。

4. DocAve コネクタ ライブラリ (**ファイルシェア** / **メディアシェア ライブラリ**) の設定および SharePoint から SharePoint ドキュメント ライブラリ、フォーム ライブラリ、画像ライブラリ、またはメディア ライブラリの設定を構成します。これらの設定の詳細については、ライブラリ レベル を参照してください。

同期設定の構成

パスの構成 ウィザードを完了した後、同期設定を構成することができます。このセクションでは、構成したパスの同期設定の設定方法を説明します。**同期設定の構成** ウィザードで同期設定を構成しなければ、既定の同期設定が使用されます。

***注意: 同期設定の構成** オプションは、ライブラリ レベルで作成する構成には使用できません。

以下の手順に従ってください。

1. **[管理]** グループの **[同期設定の構成]** をクリックし、**[同期設定の構成]** を選択します。
2. **同期設定の構成** – 選択したオブジェクトの同期に関連する設定を構成します。
   a. 該当するドロップダウン リストから、**[共通マッピング]** を選択します。既定の共通マッピング プロファイルがドロップダウン リストに表示されます。新しい共通マッピング プロファイルを作成するには、ドロップダウン リストから **[新規共通マッピングの作成]** を選択します。詳細については、共通マッピング を参照してください。
   b. 該当するドロップダウン リストから、**[プロパティ マッピング]** を選択します。既定のプロパティ マッピングがドロップダウン リストに表示されます。新しいプロパティ マッピング プロファイルを作成するには、ドロップダウン リストから **[新規プロパティ マッピングの作成]** を選択します。詳細については、プロパティ マッピング を参照してください。
   c. 該当するドロップダウン リストから、**[セキュリティ マッピング]** を選択します。既定のセキュリティ マッピング プロファイルがドロップダウン リストに表示されます。新しいセキュリティ マッピング プロファイルを作成するには、ドロップダウン リストから **[新規セキュリティ マッピングの作成]** を選択します。詳細については、セキュリティ マッピング を参照してください。

d. **スケジュールの選択** – ストレージ パスと SharePoint との間のコンテンツを定期的に同期するかどうかを選択します。

- **スケジュールなし** – データを同期するためのスケジュールを構成しません。このオプションを選択した場合、SharePoint から同期ジョブを手動で実行する必要があります。
- **自分でスケジュールを構成する** – このオプションを選択すると、**スケジュール設定** オプションおよび **処理プール** オプションが有効になります。
  - **スケジュール設定** – スケジュールの開始時刻と間隔を指定します。カレンダーで間隔を表示するには、カレンダーのアイコンまたは **[間隔]** フィールドにある **[カレンダー ビュー]** をクリックします。次に、スケジュールの終了時刻およびスケジュールの終了日時を指定します。
  - **処理プール** – 同期プロセスの処理プールを指定します。それぞれの Share Point ファームには、**DocAve_Farm(FarmName)** という既定の処理プールがあります。必要に応じて、ドロップダウン メニューから **[新規処理プールの作成]** を選択して、新しい処理プールを作成します。詳細については、処理プールの構成 を参照してください。

処理プールの構成

処理プール機能では、同時に実行できる同期ジョブの最大数を制御することができます。通常、同期ジョブはかなりリソースを消費するため、同時に複数の同期ジョブを実行すると、サーバーのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。この状況を回避するには、同時に実行する同期ジョブ数を制限する処理プール機能を使用します。

処理プールに追加される同期ジョブは、スレッドになります。処理プールで許可されるスレッド数は、同時に実行できる同期ジョブの最大数です。残りの同期ジョブがキューに入れられます。

それぞれの SharePoint ファームには既定の処理プール **DocAve_Farm(FarmName)** があります。既定の処理プールに設定されているスレッド数は **5** です。

処理プールを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. **[全般設定]** で **[スケジュール ストレージ マネージャー タブ]** > **[処理プール]** の順に進みます。

2. **[処理プール]** タブの **[管理]** グループで **[作成]** をクリックします。**処理プール** ページが表示されます。
3. **処理プール名** および **説明** (オプション) を入力します。
4. ドロップダウン リストから **[ファーム]** を選択します。
5. ドロップダウン リストから **[エージェント グループ]** を選択します。選択したエージェント グループのエージェントは、アーカイバ ジョブを実行するためにこの処理プールによって使用されます。エージェント グループの作成詳細については、DocAve 6 コントロール パネルの参照ガイド を参照してください。
6. 同期ジョブに使用する **スレッド数** を指定します。例えば、**8** を入力すると、8 つの同期ジョブが同時に実行されます。

継承設定の構成

サイト コレクション、サイト、およびライブラリ レベルは、親ノードからコネクタ設定を自動的に継承します。SharePoint とストレージ デバイスの間の接続をセットアップする場合、継承は単なる推奨です。ライブラリは親ノードに構成された設定を継承するため、SharePoint とストレージ デバイスの間の接続は、実際には SharePoint ライブラリとストレージ デバイス間の接続です。ライブラリ レベルでのコネクタ設定だけが、SharePoint とストレージの間の接続関係に影響を与えます。

この既定の継承論理が合理的であれば、各レベルでコネクタ設定 (**ストレージ パス**、**マッピング設定** など) を手動で構成する必要がありません。特定のノードの各ライブラリは親からの設定を継承するため、前述の設定の構成は 1 度だけ必要で、継承によって時間が節約されます。

必要に応じて、継承を解除し、各レベルについて固有コネクタ設定を構成することができます。前述のように、ライブラリ レベルでのコネクタ設定だけがは、SharePoint とストレージの間の接続関係に影響を与えます。

継承を解除するには、構成した親ノードの下の子ノードを選択して、**[パスの構成]** および **[同期設定の構成]** をクリックし、選択したノードの固有設定を構成します。

各レベルの継承については、以下の説明を参照してください。

サイト コレクション

上位レベルの Web アプリケーションがその上にコネクタ設定を持っている場合、既定では、下のサイト コネクションはコネクタ設定を継承します。

- 継承を解除するには、**[パスの構成]** および **[同期設定の構成]** 機能にアクセスして選択したサイト コレクションの固有設定を構成します。
- 上位レベルの Web アプリケーションがサイト コレクションを適用するコネクタ設定を持っていない場合、**[管理]** グループの **[パスの構成]** および **[同期設定の構成]** にアクセスして選択したサイト コレクションのコネクタ設定を構成します。

***注意:** サイト コレクションの管理パスが Web アプリケーション レベルで構成される場合のみ、指定した Web アプリケーションの下のサイト コレクションはコネクタ設定を構成することができます。

サイト

上位レベルのサイト コレクションにコネクタ設定がある場合、既定では、サイトは親サイト コレクションからコネクタ設定を継承します。

- 継承を解除するには、**[パスの構成]** および **[同期設定の構成]** にアクセスして選択したサイトの固有設定を構成します。
- 上位レベルのサイト コレクションがサイトを適用するコネクタ設定を持っていない場合、**[パスの構成]** および **[同期設定の構成]** をクリックして選択したサイトのコネクタ設定を構成します。

ライブラリ

上位レベルのサイトに既にコネクタ設定が構成されている場合、既定では、ライブラリは親サイトからコネクタ設定を継承します。ライブラリ レベルで同期設定を変更することはできません。

***注意:** マッピング設定およびスケジュール設定を含む同期設定は、ライブラリ レベルで変更できません。ライブラリは親から同期設定を自動的に継承します。コネクタ設定がサイト レベル以上で構成されない場合、ライブラリは既定の共通マッピング、プロパティ マッピング、およびセキュリティ マッピングを使用します。また、ライブラリは既定のスケジュール設定を使用します (**スケジュールなし**)。この場合、手動で SharePoint から同期ジョブを実行する必要があります。

コネクタ設定の削除

コネクタ設定の削除 機能を使用すると、ストレージ パス構成および同期設定構成を、Web アプリケーション、サイト コレクション、およびライブラリから削除することができます。この機能を適用すると、SharePoint とストレージ パスの間の接続を削除します。

ストレージ パス構成を削除するには、以下の手順に従ってください。**[コネクタ]** タブから、ファーム ツリー上の対象ノードを選択し、**[管理]** グループの **[パスの構成]** をクリックし、**[パスの削除]** を選択します。接続されたストレージ パスが選択したノードから削除されます。

同期設定構成を削除するには、以下の手順に従ってください。**[コネクタ]** タブから、ファーム ツリー上の対象ノードを選択し、**[管理]** グループの **[同期設定の構成]** をクリックし、**[同期設定の削除]** を選択します。選択したノードの同期設定が削除されます。

***注意:** ライブラリ レベルは同期設定構成をサポートしていないため、**[同期設定の削除]** オプションはライブラリ レベルで使用できません。

SharePoint でコネクタ ライブラリの作成

コネクタ機能をアクティブにした後に、SharePoint でコネクタ ライブラリを作成し、ストレージ パスを指定することができます。SharePoint でコネクタ ライブラリを構成する場合、ライブラリにアップロードされたファイルはすべて、既存の SQL ストレージに保持されるのではなく、指定されたストレージ デバイス パスに移動されます。

権限のマッピングを構成することができますが、独自のオブジェクトレベル権限を適用することは SharePoint において推奨されるベストプラクティスではありませんので、ご注意ください。作成時に、ライブラリがファイル システム セキュリティを再利用するか、または単に SharePoint サイトから継承するかどうかを決めることができますが、後者を強くお勧めします。

コネクタ ライブラリには、**ファイルシェア ライブラリ** と **メディアシェア ライブラリ** の 2 つのタイプがあります。いずれのライブラリにも、ライブラリにアップロードできるファイル タイプに制限はありませんが、メディアシェア ライブラリには次の特別な機能が含まれます。

- メディアシェア ライブラリでは、特定のファイル タイプのサムネイルを表示することができます。詳細については、メディアシェア ライブラリでサムネイルの表示 セクションを参照してください。
- メディアシェア ライブラリに保存されたビデオ ファイルの再生時間は、SharePoint の監査ログに記録されます。ビデオ再生アクションは、**ドキュメントを開く**、**ドキュメントのダウンロード**、**リスト内のアイテムの表示**、または **アイテムのプロパティの表示** の各イベントに含まれます。SharePoint でビデオの再生時間を記録するために監査設定を構成する場合、**監査設定の構成** ページでこのイベント オプションが選択されていることを確認してください。
- メディアシェア ライブラリでは、再生中のビデオ ファイルの URL が簡単にわかります。プレーヤーの上部にあるファイル タイトルはリンクになっています。このリンクをクリックすると、現在のビデオ ファイルを再生する Web ページに移動します。この Web ページのアドレス バーにある URL が、再生中のビデオ ファイルの URL です。必要であれば、この URL をコピーしてペーストします。
- メディアシェア ライブラリでは、2 GB 以上のメデイア ファイルを再生することができます。このライブラリで再生されるメディアファイルには、サイズの制限はありません。

***注意:** ライブラリのコネクタ設定を構成する場合、**ファイル サイズ制限** の設定にご注意ください。このオプションをオフにしている場合、ライブラリにアップロードされるファイルは 2 GB 未満でなければなりません。このオプションをオンにしている場合、2 GB 以上のファイルをライブラリにアップロードすることができます。

SharePoint でコネクタ ライブラリ (**ファイルシェア / メディアシェア ライブラリ**) を作成するには、以下の手順に従ってください。

1. SharePoint で、コネクタ機能がアクティブなサイトにアクセスします。
2. ページの左上にある **[サイトの操作]** をクリックして、ドロップダウン リストから **[その他の設定]** を選択します。**[ライブラリ]** 列の下で **[ファイルシェア / メディアシェア ライブラリ]** を探します。作成するライブラリを選択します。
    - **名前と説明 –** ライブラリ名および説明 (オプション) を入力します。
    - **ナビゲーション** – サイド リンク バーにこのライブラリを表示するかどうかを指定します。
    - **ドキュメントのバージョン履歴** – このライブラリのファイルを編集するたびにバージョンを作成するかどうかを指定します。
    - **ドキュメントのテンプレート** – このライブラリに作成されるすべての新規ファイルの既定のテンプレートを **[ドキュメントのテンプレート]** ドロップダウン リストから選択します。

SharePoint で作成されるコネクタ ライブラリの既定のパスを指定する方法などの詳細については、コネクタ パスの構成 セクションを参照してください。

***注意:** DocAve 5 コネクタ ライブラリにアクセスしたことがある場合、同じサイトに作成された DocAve 6 コネクタ ライブラリにアクセスする前に、ブラウザの Cookie およびキャッシュをクリアする必要があります。これにより、DocAve 6 コネクタ ライブラリを適切に機能させることができます。

コネクタ ライブラリの使用

コネクタ ライブラリの作成およびコンテンツの同期が終了したら、**ライブラリ** ページにアクセスしてライブラリを管理します。以下のアクションを実行することができます。

***注意: ドキュメント** タブおよび **ライブラリ** タブの下のアクションには。基本的な SharePoint ドキュメント ライブラリ機能が含まれます。AvePoint の **コネクタ** タブは、DocAve コネクタ ライブラリに固有なものです。

ドキュメント タブの使用

- **新規ドキュメント** – このライブラリ内に新しいドキュメントを作成します。
- **ドキュメントのアップロード** – このライブラリに、1 つ、または複数のファイルをアップロードします。なお、SharePoint ライブラリにはファイルのスタブだけが保存され、アップロードされたファイルは接続パスの指定フォルダーに保存されることにご注意ください。**[大容量ドキュメントのアップロード]** をクリックして、2 GB 以上のライブラリ ドキュメントをアップロードすることもできます。
- **新規フォルダー** – このライブラリ内に新しいフォルダーを作成します。
- **ドキュメントの編集** – 選択したドキュメントを開いて編集します。
- **チェックアウト** – チェックアウト済みファイルは読み取り専用になるため、編集できません。

  ***注意:** SharePoint でコネクタ ライブラリ (**ファイルシェア** / **メディアシェア ライブラリ**) 内のファイルをチェックアウトする場合、ネットシェア ストレージに保存されている該当するファイルの元のユーザー権限は、**読み取り専用** に変更されます。ファイルをチェックインした後、またはチェックアウトを破棄した後に、元の権限がネットシェア ストレージに復旧されます。
- **チェックイン** – チェックアウトしたドキュメントをチェックインし、チェックアウト中の変更を確定します。
- **チェックアウトの破棄** – チェックアウトしたドキュメントをチェックインし、チェックアウト中の変更を破棄します。
- **プロパティの表示 –** 選択したファイルのプロパティを表示します。
- **プロパティの編集** – 選択したファイルのプロパティを編集します。
- **バージョン履歴** – 選択したファイルのバージョン履歴を表示および管理します。

- **ドキュメント権限** – **[権限ツール]** にアクセスして、選択したファイルの権限を管理します。
- **ドキュメントの削除** – 現在のライブラリから選択したファイルのを削除します。

  ***注意:** ファイルは SharePoint で削除されると、ごみ箱に移されます。ごみ箱を空にしない限り、接続パスと SharePoint ライブラリの間の同期は、削除されたファイルに同期しません (つまり、ファイルを削除しません)。ファイルを削除した後にサイト コレクションのごみ箱を空にすると、接続パス内の対応するファイルも削除されます。
- **メールでリンクの送信** – 選択したファイルへのリンクをメールで送信します。
- **コピーのダウンロード** – 選択したファイルのコピーを、使用中のコンピュータにダウンロードします。
- **送信**
  - **別の場所** – 選択したファイルを別の場所に移動 / コピーします。
  - **ドキュメント ワークスペースの作成** – 選択したファイルのドキュメント ワークスペースを作成します。
- **コピーの管理** – 選択したファイルのリンクされたコピーをすべて管理します。
- **移動元に移動** – 選択したファイルにリンクされた移動元ファイルに移動します。
- **ワークフロー** – ワークフロー ページが表示して、選択したドキュメントに新しいワークフローを開始するか、または、実行中または完了済みワークフローの状態を表示します。
- **発行** – 選択したドキュメントのメジャー バージョンを発行します。
- **未発行** – 選択したドキュメントの現バージョンの発行を停止します。
- **承認 / 却下** – このライブラリへの送信を承認または却下します。
- **承認の取り消し** – 送信の承認 / 却下を取り消して、選択したドキュメントの発行を停止します。
- **お気に入り** – 選択したアイテムに [お気に入り] のタグを付けします。
- **タグ と メモ** – 選択したアイテムにタグを追加します。アイテムをわかりやすくするために、アイテムにメモを追加することもできます。メモはは公開されます。

ライブラリ タブの使用

- **標準ビュー** – 標準リスト形式でアイテムを表示します。
- **データシート ビュー** – データシートリスト形式でアイテムを表示します。
- **列の新規** – このリストに新しい列を追加します。
- **作業ウィンドウの表示** – 追加のコマンドにアクセスするには、作業ウィンドウを開きます。
- **合計の表示** – 各列の下に合計を表示します。
- **データの更新** – 別のユーザーが行った変更を表示するために、データを再読み込みします。
- **ビューの作成** – 新しいビューを作成するための要件に応じて、列、フィルタ、および別の設定を選択します。
- **ビューの変更** – 既存のビューを変更します。
- **列の作成** – 現在のライブラリ内の各アイテムに関する追加情報を保存するために、新しい列を追加します。
- **上へ移動** – 現在のフォルダーの親フォルダーに移動します。
- **現在のビュー** – ドロップダウン リストから異なるビューを選択します。次のページまたは前のページに移動するには、**[現在ページ]** フィールドの隣にある三角形をクリックします。
- **メールでリンクの送信** – このライブラリへのリンクをメールで送信します。
- **RSS フィード** – 選択したライブラリの **RSS フィード** ページに移動して、フィードを表示および購読します。
- **SharePoint ワークスペースへの同期**SharePoint ワークスペースを使用して、このライブラリの同期コピーを使用中のコンピュータに作成します。
- **Office に接続** – Office の **名前を付けて保存** ダイアログ ボックスと **ファイルを開く** ダイアログ ボックスのお気に入りリストの **SharePoint サイト** フォルダー内のライブラリへのショートカットを作成します。これで、Microsoft Office プログラムから、よく使用するライブラリに簡単にアクセスできます。
- **Outlook に接続** – アイテムを同期し、Microsoft Outlook を使用して同期したアイテムをオフラインで表示できるようにします。

- **Excel にエクスポート** – Microsoft Excel を使用して、このライブラリ内のアイテムをエクスポートします。
- **エクスプローラで開く** – このライブラリを標準の Windows エクスプローラ フォルダーとして開きます。
- **フォーム Web パーツ** – このライブラリに関連するフォーム内の Web パーツを変更します。
- **ライブラリの編集** – SharePoint Designer で現在のライブラリを編集します。
- **新しいクイック操作** – ライブラリ内のアイテムに対してカスタム アクションを実行するための独自のリボン ボタンを作成します。
- **ライブラリ設定** – 現在のライブラリの権限、列、およびビューなどの設定を構成します。
- **ライブラリ権限** – 現在のライブラリの権限を管理します。
- **ワークフロー設定** – 現在のライブラリに関連するワークフローの設定を変更します。

コネクタ タブの使用

- **同期の操作** – 現在のライブラリの同期ジョブを実行します。
    - **フォルダーの同期** – 現在のフォルダーのみを同期します。
    - **フォルダーとサブフォルダーの同期** – 現在のフォルダーと下のサブフォルダーを同期します。
- **レポートの表示** – ライブラリの最新の同期ジョブ レポートをダウンロードします。

***注意:** SharePoint ドキュメント ライブラリ、フォーム ライブラリ、画像ライブラリ、およびメディア ライブラリには、このタブはありません。ライブラリの **コネクタ設定** ページにアクセスして、これらのライブラリ タイプの同期を手動で実行するか、または、同期ジョブ レポートをダウンロードすることができます。

メディアシェア ライブラリでサムネイルの表示

メディアシェア ライブラリでは、サムネイルを表示できるファイルのタイプは、ビデオ、画像、および PPT です。これらのファイル タイプの詳細については、付録 A: メディアシェア ライブラリ内のビデオ / オーディオ / 画像ファイル を参照してください。

ビデオ サムネイルを表示するには、ffmpeg をインストールして構成ファイルを設定するか、または、SMPlayer をインストールすることをお勧めします。ffmpeg または SMPlayer のインストールおよび構成については、ffmpeg または SMPlayer のインストールと構成 を参照してください。

ffmpeg または SMPlayer のインストールと構成

メディアシェア ライブラリでサムネイルを表示するには、まず SMPlayer または ffmpeg をインストールして構成します。

ffmpeg

ffmpeg のインストールおよび構成については、次の手順を参照してください。

1. *http://www.videohelp.com/tools/ffmpeg* から **ffmpeg.zip** ファイルをエージェントのインストール パスへダウンロードして抽出します。既定では、インストール パスは *...¥AvePoint¥DocAve6¥Agent¥bin* です。
2. **SP2010SOConnector.config** ファイルを *…¥AvePoint¥DocAve6¥Agent¥data¥SP2010¥Connector* で探します。
3. **SP2010SOConnector.config** ファイルで、*<FFMpegPath>* 要素の値を **ffmpeg.exe** ファイルのフル パスに変更します。例えば、

   <FFMpegPath>C:¥Program Files¥AvePoint¥DocAve6¥Agent¥bin¥ffmpeg¥ffmpeg.exe</FFMpegPath>
4. **[スタート]** > **[すべてのプログラム]** > **[AvePoint DocAve 6]** > **[DocAve 6 エージェント ツール]** に移動し、**[エージェント再起動サービス ツール]** をクリックして、ポップアップ ウィンドウで **[エージェント サービス]** を再起動します。

SMPlayer

SMPlayer のインストールおよび構成については、次の手順を参照してください。

1. *http://sourceforge.net/projects/smplayer/* から SMPlayer インストール パッケージをダウンロードします。
2. 言語を選択するドロップダウン ボックスで、**[英語]** を選択します。

3. **[次へ]** をクリックし、**[ソフトウェア ライセンス契約の条項に同意します]** を選択します。**[次へ]** をクリックします。
4. ドロップダウン ボックスから **[標準]** インストール タイプを選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. インストール先フォルダーを指定し、**[インストール]** をクリックします。
6. インストール プロセスが終了したら、**[終了]** をクリックしてインストール プロセスを終了します。

ファイルを開く際に使用するプレーヤーを指定するには、**[プレーヤー]** メタデータ列を設定してください。

コネクタ ライブラリの保持

お使いのコネクタまたは SharePoint ライブラリは外部ストレージに接続されているため、SharePoint との同期を維持することで、ライブラリの健全な状態を保つことが重要です。手動同期、スタブのコンテンツへの変換、およびその他のメンテナンスの操作については、以下のセクションを参照してください。

手動で SharePoint を介して接続パスでライブラリを同期

接続されたライブラリの同期設定を構成する際にスケジュールを設定しなかった場合、ライブラリとストレージ パスを手動で同期しなければなりません。これは、ライブラリ スタブがストレージ パス内に存在する最新のコンテンツを表示するために必要です。SharePoint の **コネクタ設定** ページにアクセスし、手動で同期操作を実行します。

- **同期** – 接続ストレージ パスを使用して、現在のライブラリを同期します。
    - **レポートの表示** – ライブラリの最新の同期ジョブ レポートをダウンロードします。
- **コネクタ設定の編集** – **ライブラリ設定** ページに戻ります。このページで、現在のライブラリのコネクタ設定を編集することができます。

同期が終了すると、ファイル システム内のファイルおよびフォルダーのスタブが、ライブラリで作成またはアップロードされます。

スタブの実体化

同期ジョブの実行後、コネクタはデータをストレージ パスに移動して、元のデータの代わりに、SharePoint でスタブを作成します。これらのスタブを SharePoint の SQL サーバーのデータに戻すには、**スタブの実体化** 機能を使用します。

***注意:** スタブとコンテンツの定義の詳細については、スタブまたは実コンテンツの判定 を参照してください。

1. **[リストア]** グループで **[コネクタ]** タブ > **[スタブの実体化]** をクリックします。ポップアップ ウィンドウが表示されます。

2. ポップアップ ウィンドウでスタブ リストアを実行する範囲を選択します。必要であれば、テキスト ボックスに条件を入力し、拡大鏡をクリックして、指定したオブジェクトを探します。
3. ツリーは、アイテム レベルまで展開することができます。**[アイテム]** をクリックすると、同期されたアイテムのスタブがすべて **スタブ ブラウザ** エリアに表示されます。スタブ名、スタブ タイプ、およびスタブの実データのサイズが表示されます。
4. 今すぐスタブを変換するか、または、**[スケジュール]** フィールドで指定した時間を実行するかを選択してから、次の設定を構成します。
    - **すぐに変換する** – 今すぐスタブを実データに変更するには、このオプションを選択します。
    - **自分でスケジュールを構成する** – 構成したスケジュールに基づきスタブを変更するには、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、次のオプションが表示され、構成される必要があります。
5. **[OK]** をクリックして、変換を開始し、選択した範囲のスタブを実データに変換します。

スタブまたは実コンテンツの判定

SharePoint には、ストレージ マネージャーのスタブを特定するマーカーはありません。データはスタブであるか、実コンテンツであるかを判断するには、以下の方法を参照してください。

- EBS プロバイダを使用する場合、Microsoft SQL Server Management Studio でサイト コレクション内のコンテンツ データベースに移動して、**AllDocs** テーブルを検索します。**docflags** 列で指定したアイテムの値が **6553** より大きければ、このアイテムはスタブです。それ以外の場合、このアイテムは実コンテンツです。
- RBS プロバイダを使用する場合、Microsoft SQL Server Management Studio でサイト コレクション内のコンテンツ データベースに移動して、**AllDocStreams** テーブルを検索します。**Rbsld** 列の指定したアイテムの値が **Null** でなく、コンテンツ列の値が Null の場合、このアイテムはスタブです。**コンテンツ** 列の指定したアイテムの値が **Null** でない場合、このアイテムは実コンテンツです。

コネクタ ジョブ状態の確認

[コネクタ] タブで、**[統計]** グループの **[ジョブ モニター]** をクリックして、コネクタ モジュールのジョブ モニターに移動します。ここで、スケジュールされたコネクタ同期ジョブの状態を表示することができます。

ジョブ もにたーは、ジョブを監視し、エラーを診断する場合の最初の手順です。各オプションの詳細については、DocAve 6 ジョブ モニター リファレンス ガイド を参照してください。

***注意:** スケジュールされたコネクタ同期ジョブのみ、DocAve ジョブ モニターで監視することができます。Share Point で手動で実行する同期ジョブの場合、表示された進行状況バーを参照して状態を確認します。

同期ジョブが終了すると、コネクタは SharePoint 内の各コネクタ ライブラリの同期の詳細情報を含むジョブ レポートも生成します。これらのジョブ レポートをダウンロードする方法については、コネクタ タブの使用 および 手動で SharePoint を介して接続パスでライブラリを同期 を参照してください。

DocAve 5 スタブを DocAve 6 形式にアップグレード

DocAve 6.1 では、DocAve 5 に生成されたコネクタ スタブを DocAve 6.1 形式へアップグレードすることができます。すべての操作は、コントロール パネルで実行します。詳細については、DocAve 6 コントロール パネルの参照ガイド の DocAve 5 コネクタ スタブの変換セクションを参照してください。

コネクタ SDK を使用してレポートを生成

コネクタ SDK を使用して、コネクタで各コネクタ ライブラリのマッピング詳細を表示するレポート (.csv 形式) を生成することができます。これらのレポートは、例えば、エンドユーザーの展開の詳細を確認するために使用します。

レポートに生成される情報には、**フィーム名**、**ライブラリ タイトル**、**ソリューション名**、**サイト コレクション URL**、**サイト URL**、**ストレージ タイプ**、**Web アプリケーション URL**、**ライブラリ URL**、**接続パス**、**コンテンツ データベース** および **ライブラリ タイプ** が含まれます。このようなレポートを生成するために適切なコネクタ API を呼び出す方法については、DocAve コネクタ SDK ユーザー ガイドを参照してください。

コネクタ ツール

いくつかのツールは、コネクタ モジュールと一緒に提供されます。これらのツールを使用する方法については、DocAve 6 補助ツール ユーザー ガイド を参照してください。

- **AgentToolSP2010ConnectorCreateList Tool** – このツールを使用して、DocAve GUI の外からコネクタ機能を実行します。
- **AgentToolConnectorEncryptPassword Tool** – このツールを使用して、コネクタのパスワードを暗号化します。AgentToolSP2010ConnectorCreateList ツールと併用します。
- **AgentToolSP2010Connector Tool** – このツールを使用して、コネクタの接続されたストレージ パスに保存されているドキュメント バージョンを、DocAve 6.0 から DocAve 6.1 にアップグレードします。
- **AgentToolSP2010OrphanStubClean Tool** – このツールを使用して、SharePoint からコネクタの孤立したスタブを整理します。
- **AgentToolSP2010MoveStub Tool** – このツールを使用して、既存のスタブ データベースを別のスタブ データベースに変更して、古いスタブ データベースから新しいスタブ データベースに既存のデータをすべてコピーします。

コネクタの注意事項

- ファイルが、ファイルシェア / メディアシェア ライブラリ / キュメント ライブラリ / フォーム ライブラリ / 画像ライブラリ / メディア ライブラリに同期された後に、以下の点にご注意ください。
    - コネクタ設定で **ファイル システムからメタデータを読み込む** 機能を有効にしている場合、同期ファイルの **更新者** 属性は **最終保存者属性** の値を読み込みます。
    - コネクタ設定で **ファイル システムからメタデータを読み込む** 機能を有効にしていない場合、同期ファイルの **更新者** 属性はエージェントアカウントを値として読み込みます。
- ファイルシェア ライブラリの **タイトル** 属性を読み込むことができません。

- メディアシェア ライブラリでは、AVI ファイルをダウンロードして AVI ファイルを再生することをお勧めします。
- RMS 環境で、コネクタ ライブラリの DocAve 5 アーカイバ、DocAve 5 バイナリー ストア、DocAve 6 リアルタイム ストレージ マネージャー 、または DocAve 6 スケジュール ストレージ マネージャーを使用する場合、RMS 環境はデータを暗号化するために一部のファイルを開くことができません。コネクタでは、暗号化されたデータを読み込むことができません。

サブ データベースの継承

稀に、(例えば、ファイルが数百万にも上るレコードの管理など)、Web アプリケーション / コンテンツ データベース レベルで異なるスタブ データベースを構成する必要があります。このケースに当てはまる場合は、以下の情報を参照してください。

次の点に注意してください。

- 下位レベルでスタブ データベースを指定せずに、ファーム レベルでスタブ データベースを構成する場合、新しく追加された Web アプリケーションおよびコンテンツ データベースは親ノードのスタブ データベースを使用します。
- コネクタ ジョブを実行中にスタブ データベースが特定のオブジェクトに構成されていない場合、このオブジェクトは親ノードのスタブ データベースを使用します。

例えば、Web アプリケーションにスタブ データベースだけが構成され、それに対してコネクタ ルールを設定すると仮定します。Web アプリケーションの下のコンテンツ データベース用のスタブ データベースを構成しませんでした。コネクタのルールがWeb アプリケーションの指定したコンテンツ データベースに対して起動されると、そのコンテンツ データベースは Web アプリケーションのスタブ データベースを継承します。スタブ データベースの構成は保存され、このコンテンツ データベースに対して後で実行されるすべてのコネクタ ジョブにで使用されます。

下表の × は該当するコンポーネントが構成されないままであることを意味します。下位レベルが上位レベルのスタブ データベースを継承しない用にする場合は、指定のレベルまでツリーを展開し、下位レベルのそれぞれについて、スタブ データベースを構成します。

選択したノード	**サブ データベースの構成状態**			
	既存の Web アプリケーション	**既存のコンテンツ データベース**	**新規追加の Web アプリケーション**	**新規追加のコンテンツ データベース**
ファーム ノードのみ	×	×	ファームのスタブ データベースを継承します。	ファームのスタブ データベースを継承します。

選択したノード	サブ データベースの構成状態			
	既存の Web アプリケーション	**既存のコンテンツ データベース**	**新規追加の Web アプリケーション**	**新規追加のコンテンツ データベース**
Web アプリケーション ノードのみ	選択した Web アプリケーション ノードのスタブ データベースだけが構成されています。	×	×	新規追加のコンテンツ データベースが選択した Web アプリケーション ノードの中にある場合、Web アプリケーションのサブ データベースを継承します。それ以外の場合、構成されていないままの状態です。
コンテンツ データベース ノードのみ	×	選択したコンテンツ データベース ノードのサブ データベースだけが構成されています。	×	×
ファーム ノードと Web アプリケーション ノード	ファーム ノードと選択した Web アプリケーション ノードのサブ データベースだけが構成されています。	×	ファームのスタブ データベースを継承します。	新規追加のコンテンツ データベースが選択した Web アプリケーション ノードの中にある場合、Web アプリケーションのサブ データベースを継承します。それ以外の場合、ファームのサブ データベースを継承します。

選択したノード	サブ データベースの構成状態			
	既存の Web アプリケーション	**既存のコンテンツ データベース**	**新規追加の Web アプリケーション**	**新規追加のコンテンツ データベース**
ファーム ノードとコンテンツ データベース ノード	×	ファーム ノードおよび選択したコンテンツ データベース ノードのスタブ データベースだけが構成されています。	ファームのスタブ データベースを継承します。	ファームのスタブ データベースを継承します。
Web アプリケーション ノードとコンテンツ データベース ノード	選択した Web アプリケーション ノードおよびコンテンツ データベース ノードのスタブ データベースだけが構成されています。	選択した Web アプリケーション ノードおよびコンテンツ データベース ノードのスタブ データベースだけが構成されています。	×	新規追加のコンテンツ データベースが選択した Web アプリケーション ノードの中にある場合、Web アプリケーションのサブ データベースを継承します。それ以外の場合、構成されていないままの状態です。
ファーム ノード、Web アプリケーション ノードとコンテンツ データベース ノード	ファーム ノード、選択した Web アプリケーション ノードおよびコンテンツ データベース ノードのサブ データベースだけが構成されています。	ファーム ノード、選択した Web アプリケーション ノードおよびコンテンツ データベース ノードのサブ データベースだけが構成されています。	ファームのスタブ データベースを継承します。	新規追加のコンテンツ データベースが選択した Web アプリケーション ノードの中にある場合、Web アプリケーションのサブ データベースを継承します。それ以外の場合、ファームのサブ データベースを継承します。

ホット キー モードの使用

DocAve ではホット キー モードがサポートされているため、キーボードのみを使用し、アクションを実行することができます。

コネクタ インターフェイスからホット キー モードにアクセスするには、**Ctrl** +**Alt** + **Z** キーを押します。

次の表は、**コネクタ** タブのホット キーのリストです。下位レベルのインターフェイスにアクセスした後にトップ レベルに戻るには、**Ctrl + Alt + Z** キーを押します。

例えば、**H** キーを押し続けると、ストレージ最適化のホーム ページに戻ります。

操作インターフェイス	**ホット キー**
ストレージ最適化のホーム ページ	H
リアルタイム ストレージ マネージャー	R
スケジュール ストレージ マネージャー	S
コネクタ	C
アーカイバ	A
DocAve ホーム ページ	1
DocAve オンライン コミュニティ	2
コントロール パネル	3
ジョブ モニター	4
プラン グループ	5
アカウント情報	9
ヘルプと詳細	0

ホット キーを使用してコネクタ ページへのアクセス

ホット キー モードのトップ レベルで **C** を押して、コネクタ インターフェイスにアクセスしてから、適切なホット キーを選択すると、リボンに表示されている機能を使用することができます。リボンの機能および対応するホット キーは、次の表のとおりです。

機能名およびホット キー			
パスの構成	G	パスの構成	G
		パスの削除	R
同期設定の構成	R	同期設定の構成	なし
		同期設定の削除	なし
機能の管理			F
共通マッピング			C
プロパティ マッピング			N
セキュリティ マッピング			A
スタブの実体化	V	OK	なし
		キャンセル	なし
BLOB プロバイダ			B
処理プール			P
ジョブ モニター			J

機能の管理

機能名およびホット キー	
コネクタ ライブラリ	なし
メディアシェア ライブラリ	なし
ライブラリ変換	なし
閉じる	なし

共通マッピング

<table>
<tr><th colspan="6">機能名およびホット キー</th></tr>
<tr><td rowspan="2">作成</td><td rowspan="2">N</td><td>OK</td><td colspan="3">O</td></tr>
<tr><td>キャンセル</td><td colspan="3">B</td></tr>
<tr><td rowspan="3">詳細の表示</td><td rowspan="3">V</td><td rowspan="2">編集</td><td rowspan="2">E</td><td>OK</td><td>O</td></tr>
<tr><td>キャンセル</td><td>B</td></tr>
<tr><td>閉じる</td><td colspan="3">X</td></tr>
<tr><td rowspan="2">編集</td><td rowspan="2">E</td><td>OK</td><td colspan="3">O</td></tr>
<tr><td>キャンセル</td><td colspan="3">B</td></tr>
<tr><td>削除</td><td colspan="5">D</td></tr>
<tr><td>閉じる</td><td colspan="5">X</td></tr>
</table>

プロパティ マッピング

<table>
<tr><th colspan="6">機能名およびホット キー</th></tr>
<tr><td rowspan="2">作成</td><td rowspan="2">N</td><td>OK</td><td colspan="3">O</td></tr>
<tr><td>キャンセル</td><td colspan="3">B</td></tr>
<tr><td rowspan="3">詳細の表示</td><td rowspan="3">V</td><td rowspan="2">編集</td><td rowspan="2">E</td><td>OK</td><td>O</td></tr>
<tr><td>キャンセル</td><td>B</td></tr>
<tr><td>閉じる</td><td colspan="3">X</td></tr>
<tr><td rowspan="2">編集</td><td rowspan="2">E</td><td>OK</td><td colspan="3">O</td></tr>
<tr><td>キャンセル</td><td colspan="3">B</td></tr>
<tr><td>削除</td><td colspan="5">D</td></tr>
<tr><td>閉じる</td><td colspan="5">X</td></tr>
</table>

セキュリティ設定

<table>
<tr><th colspan="6">機能名およびホット キー</th></tr>
<tr><td rowspan="2">作成</td><td rowspan="2">N</td><td>OK</td><td colspan="3">O</td></tr>
<tr><td>キャンセル</td><td colspan="3">B</td></tr>
<tr><td rowspan="3">詳細の表示</td><td rowspan="3">V</td><td rowspan="2">編集</td><td rowspan="2">E</td><td>OK</td><td>O</td></tr>
<tr><td>キャンセル</td><td>B</td></tr>
<tr><td>閉じる</td><td colspan="3">X</td></tr>
<tr><td rowspan="2">編集</td><td rowspan="2">E</td><td>OK</td><td colspan="3">O</td></tr>
<tr><td>キャンセル</td><td colspan="3">B</td></tr>
<tr><td colspan="2">削除</td><td colspan="4">D</td></tr>
<tr><td rowspan="3">SharePoint アクセス許可レベルの管理</td><td rowspan="3">M</td><td>作成</td><td colspan="3">なし</td></tr>
<tr><td>詳細の表示</td><td colspan="3">なし</td></tr>
<tr><td>編集</td><td colspan="3">なし</td></tr>
</table>

機能名およびホット キー			
		削除	なし
		閉じる	なし
閉じる		X	

BLOB プロバイダ

機能名およびホット キー	
構成	G
戻る	B
次へ	N
完了	F
キャンセル	C

処理プール

機能名およびホット キー			
作成	N	OK	なし
		閉じる	なし
編集	E	OK	なし
		閉じる	なし
削除	D		
閉じる	X		

コネクタ SDK および PowerShell の使用

コネクタ SDK

DocAve コネクタには、コネクタ API を呼び出すことによってコネクタを使用するための一連の API が実装されています。コネクタ API の詳細については、コネクタ SDK ヘルプ ファイル **SP2010ConnectorAPI.chm** を参照してください。このファイルは DocAve エージェント インストール パスに保存されています。既定のパスは、*…¥AvePoint¥DocAve6¥Agent¥Documents¥SDK¥Connector* です。

コネクタ PowerShell

DocAve コネクタは、Windows PowerShell でスナップインを登録するため、Windows PowerShell でコネクタ コマンドを実行して、特定のコネクタ機能を使用することができます。コマンドは、DocAve エージェントがインストールされているサーバーでのみ実行することができます。

***注意:** Windows PowerShell でコネクタ コマンドを実行するために使用するアカウントには、以下の権限が設定されていなければなりません。

- ローカル管理者のメンバー。
- ファーム管理者のメンバー。
- Web アプリケーションのユーザー ポリシーによる、すべての Web アプリケーションのすべてのゾーンに対するフル コントロール。
- メンバーはコンテンツ データベース、SharePoint 構成データベース、および全体管理のコンテンツ データベースを含む SharePoint に関連するデータベース用の db_owner のデータベース ロールを持っています。

登録したコネクタ スナップインの追加

Windows PowerShell でコネクタ コマンドを実行するには、登録したコネクタ スナップインを Windows PowerShell に追加しなければなりません。コネクタ スナップインを追加するには、以下の手順に従ってください。

***注意:** コネクタ コマンドを実行する前に、毎回、コネクタ スナップインを Windows PowerShell に追加する必要があります。

1. DocAve エージェントをインストールしたサーバーで、**[スタート]** をクリックします。
2. **Windows PowerShell** を探し、クリックして実行します。
3. コネクタ スナップインをインポートするには、次のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

   Add-PSSnapin ConnectorSnapIn

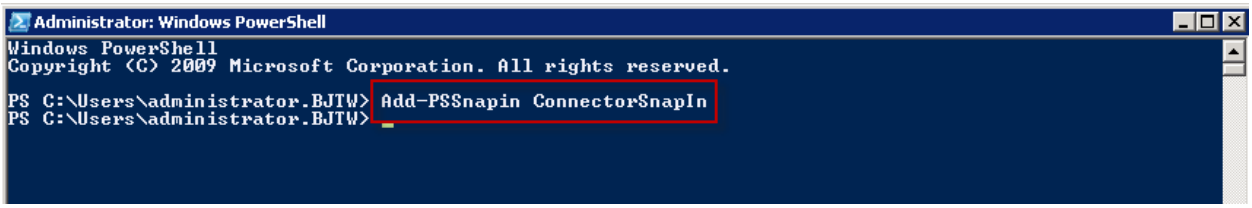

図 3: コネクタ スナップインの追加

コネクタ コマンドのリストの取得

DocAve コネクタには、Windows PowerShell でコネクタ機能を実行するコマンドが 6 つあります。これらの 6 つのコマンドの基本情報を取得するには、コネクタ スナップインが追加された PowerShell で、次のコマンドを入力します。

Get-Command -Module ConnectorSnapIn

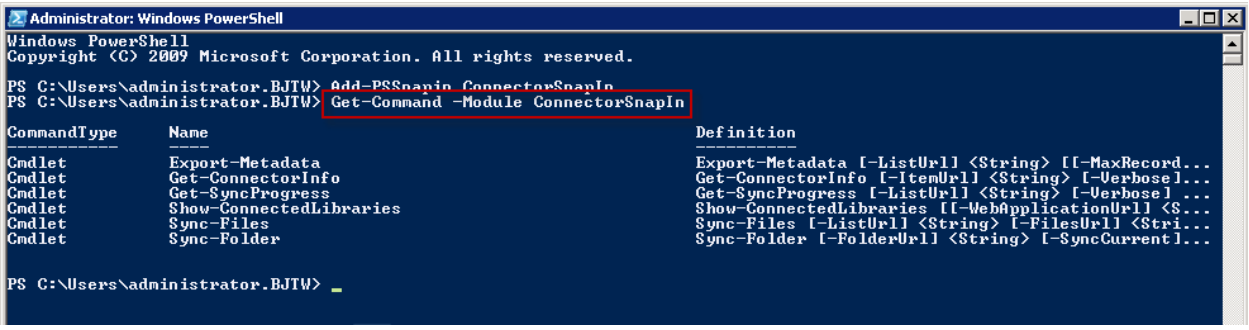

図 4: コネクタ コマンドの取得

ヘルプ情報の取得

Windows PowerShell でヘルプ情報を表示

コネクタ コマンドに関するヘルプ情報を表示するには、Windows PowerShell で次のコマンドを入力します。それぞれのコマンドとパラメータ、およびのコマンド ラインの例などの説明が含まれます。

Get-Command -Module ConnectorSnapIn | Get-Help -Detailed

.csv ファイルへのヘルプ情報のエクスポート

ヘルプ情報を .csv ファイルにエクスポートし、ローカル コンピュータに保存するには、次のコマンドを入力します。

Get-Command -Module ConnectorSnapIn | Get-Help -Detailed | Out-File -FilePath C:¥Help.csv

このコマンドを実行すると、**Help.csv** という名前のファイルがローカル コンピュータに生成されます。

DocAve コネクタの使用例

SharePoint を使用するうえで組織が遭遇する一般的な問題には、1 つ、または複数のファイルシェア上にある多数のファイルを環境に組み込む方法などが含まれます。このようなファイルシェアがネットワークに存在し、組織内の誰でもアクセスできるため、その中に大量の未整理データが含まれてしまうことがよくあります。ストレージ最適化の観点から、これらのファイルを SharePoint の SQL サーバーに移行することは望ましくありません。

この問題に、大規模な病院の SharePoint 管理者であるジョーが直面しています。この病院は、SharePoint 環境を導入する前に、3 つの異なるファイルシェアを使用して多種多様なデータを保存していました。現在、ジョーは SharePoint 管理者として、これらのファイルを SharePoint に移す方法を決める責任を負っています。そこで、ジョーは、SQL サーバーが最高のパフォーマンスを発揮する のは、BLOB が雑然としてない場合であることを知っていたので、DocAve コネクタを導入して、これらのファイル シェアを SharePoint 環境に「接続する」ことに決めました。この方法であれば、最適な SQL ストレージ容量を保ちながら、SharePoint のメタデータ、セキュリティ、および権限機能を活用することができます。

ジョーはまず、RBS を BLOB プロバイダとして選択 しました。スタブ データベース (接続されたコンテンツのスタブを保存する SQL 内の場所) を構成し、BLOB プロバイダを有効 にしました。次に、自分のファーム上に、コネクタのソリューションを 展開 して、アクティブ にしました。

これが終わると、コネクタの **[パスの構成]** 機能を使用して、目的の SharePoint ライブラリをファイルシェアに接続 しました。**[範囲]** パネルで、適用可能なサイトの **リスト** ノードに移動し、既存のライブラリを選択し、以下のように設定を構成しました。

- コンテンツが接続された後に、SharePoint から権限を管理したかったので、**[ファイル システムから権限を読み込む]** は選択しませんでした。
- **[ファイル システムからメタデータを読み込む]** と **[名前の一致]** については、**[はい]** を選択しました。
- ファイルシェア内にサイズの大きい特定の画像があることを知っていたので、**[2GB 以上のファイルを許可する]** を選択しました。これらのファイルは、スタブを作成する代わりに、リンクさせることにします。

ジョーは、ファイルシェア コンテンツをこのライブラリに接続するだけでなく、この SharePoint 内のすべての既存のコンテンツを、接続されたファイルシェアに移すことにしていました。このライブラリ内の既存のコンテンツを SQL サーバーから移動したかったからです。さらに、ライブラリレ ベルで接続を作成していたので、同期設定を構成す

る必要はありませんでした。ファイルシェア コンテンツが SharePoint ライブラリに接続されると、SharePoint ライブラリにアップロードされたファイルは、構成されたファイルシェア パスに移されます。

SharePoint ライブラリとファイルシェアの間の接続パスを問題なく作成できたので、DocAve コンテンツ マネージャー を使用して、接続されたファイルを再整理し、SharePoint 環境で適切なライブラリ場所に保存しました。ジョーは、時間のかかる移行作業を回避しただけでなく、ファイルシェアから SQL が BLOB でいっぱいになることを防ぎました。同時に、接続されたコンテンツに対して、SharePoint のメタデータ、権限、およびセキュリティ機能を使用できるようになりました。

付録 A: メディアシェア ライブラリ内のビデオ / オーディオ / 画像ファイル

メディアシェア ライブラリにアップロードできるビデオ ファイル形式および各ビデオ形式用の推奨プレーヤーについて、次の表を参照してください。

形式	**推奨プレーヤー**
WMV	Windows Media Player
FLV	Flash Player
AVI	Windows Media Player
RM	Real Player
RMVB	Real Player
DAT	Windows Media Player
MP4	Windows Media Player、QuickTime Player
MOV	QuickTime Player
MPEG	Windows Media Player
MPG	Windows Media Player
SWF	未サポート。名前をクリックして、Internet Explorer で開くことができます。
ASF	未サポート
3GP	未サポート
VOB	未サポート

メディアシェア ライブラリにアップロードできるオーディオ ファイル形式および各オーディオ形式用の推奨プレーヤーについて、次の表を参照してください。

形式	**推奨プレーヤー**
WAV	Windows Media Player
MID	Windows Media Player
WMA	Windows Media Player
MP3	Silverlight Player
FLAC	未サポート。ただし、ファイルをダウンロードすることはできます。
APE	未サポート。ただし、ファイルをダウンロードすることはできます。
OGG	未サポート。ただし、ファイルをダウンロードすることはできます。

画像ファイル形式に関連する詳細については、次の表を参照してください。

***注意:** サムネイル情報は、**すべてのビデオ サムネイル** ビューおよび **すべてのビデオの詳細** ビューで使用できます。

形式	**ファイルのサムネイルがあるか ?**	**ファイルをプレビュー フィールドでプレビューできるか ?**
BMP	はい	はい
GIF	はい	はい
JPEG/JPG	はい	はい
PNG	はい	はい
EXIF	はい	はい
ICO	はい	はい

TIFF	はい	はい
PCX	いいえ	いいえ
TIF	いいえ	いいえ
FPX	いいえ	いいえ
SVG	いいえ	いいえ
UFO	いいえ	いいえ
CDR	いいえ	いいえ
PCD	いいえ	いいえ
DXF	いいえ	いいえ
PSD	いいえ	いいえ

付録 B: マルチブラウザ サポート

DocAve コネクタ ライブラリは、マルチブラウザのアクセスをサポートします。コネクタ ライブラリでの様々なアクションに関するマルチブラウザ サポートについて、次の表を参照してください。

コネクタ ライブラリ内のアクション	**IE**	**Chrome**	**Firefox**	**Safari**	**Opera**
ライブラリの作成	サポート	サポート	サポート	サポート	サポート
同期	サポート	サポート	サポート	サポート	サポート
新規ドキュメント	サポート	未サポート	未サポート	未サポート	未サポート
新規フォルダー	サポート	サポート	サポート	サポート	サポート
チェックアウト / イン	サポート	サポート	サポート	サポート	未サポート
ドキュメントのアップロード	サポート	サポート	サポート	サポート	サポート
複数のドキュメントのアップロード	サポート	未サポート	未サポート	未サポート	未サポート
大容量ドキュメント / マルチメディアのアップロード	サポート	サポート	サポート	未サポート	未サポート
エクスプローラ ビュー	サポート	未サポート	未サポート	未サポート	未サポート
コンテンツの編集 (Officeファイル)	サポート	未サポート	未サポート	未サポート	未サポート
プロパティの編集	サポート	サポート	サポート	サポート	サポート
パスの変更	サポート	サポート	サポート	サポート	サポート
レポートの表示	サポート	サポート	サポート	サポート	サポート
ビデオの再生	サポート	未サポート	未サポート	未サポート	未サポート

付録 C: コネクタ構成ファイル

DocAve コネクタには、**SP2010SOConnector.config** という名前の構成ファイルがあります。構成ファイル内の要素を編集することでコネクタの既定の設定をカスタマイズすることができます。既定では、このファイルは *…¥AvePoint¥DocAve6¥Agent¥data¥SP2010¥Connector* にあります。**SP2010SOConnector.config** 内の各要素の機能については、次の表を参照してください。

要素	**機能の説明**
<FFMpegPath>C:¥Program Files¥AvePoint¥DocAve6¥Agent¥bin¥ffmpeg¥ffmpeg.exe</FFMpegPath>	これは **ffmpeg.exe** ファイルが保存されている既定パスです。このファイルはメディアシェア ライブラリでビデオ サムネイルを表示するために必要です。このパスを変更する場合、ダウンロードした **ffmpeg.exe** ファイルを、新しいパスに保存してください。
<VideoTypes>wmv、wma、mp3、flv、aac、mp4、vp6、avi、asf、ape、aiff、au、cd、dat、dvd、divx、mpeg、mpg、mov、mid、ogg、ra、rm,rmvb、qt、svcd、vcd、vqf、wav、3gp、m4v、mts</VideoTypes>	この要素には、メディアシェア ライブラリでサムネイルを生成する場合にサポートされるビデオ タイプが含まれます。拡張子を使用して新しいビデオ タイプを追加するか、または、この要素から既存のビデオ タイプを削除することができます。
<ImageTypes>bmp、emf、exif、gif、icon、jpeg、jpg、png、tiff、ico、wmf、tif、pe、wdp、jfif、dib</ImageTypes>	この要素には、メディアシェア ライブラリでサムネイルを生成する場合にサポートされるイメージ タイプが含まれます。拡張子を使用して新しいイメージ タイプを追加するか、またはこの要素から既存のイメージ タイプを削除することができます。
<ConnectorProcessorReserveTime>300</ConnectorProcessorReserveTime>	この要素を使用して、コネクタ プロセス **SP2010ConnectorProcessor.exe** のアイドル時間を制御します。DocAve マネージャー GUI でコネクタ関連の設定を構成する際に、このプロセスが起動します。最後のアクションの 300 秒後に起動されるアクションがない場合、このプロセスは自動的に終了します。予備時間を正の整数に変更することができます。単位は秒です。

要素	機能の説明
<ExcludedProcessNames>SP2010ConnectorProcessor、SP2010StorageOptimizationService、SP2010ConnectorISync</ExcludedProcessNames>	このノードに追加されたプロセスがアクティブな場合、コネクタ イベント ハンドラを起動しません。
<EnableEventHandlerFlag>false</EnableEventHandlerFlag>	この要素は、コネクタの同期ジョブの実行中にイベント ハンドラを有効にするかどうかを制御します。False は、同期ジョブの実行中にイベント ハンドラが無効であることを意味します。True の場合は、イベント ハンドラを有効にします。
<DeleteVersionsWhenDeleteSetting>false</DeleteVersionsWhenDeleteSetting>	この要素は、ライブラリからコネクタ設定を削除する際に、ストレージ パスの .fsdl フォルダーに保存されたバージョン ファイルを削除するかどうかを制御します。
<EnableCloudThumbnail>false</EnableCloudThumbnail>	この要素は、クラウド ストレージに同期ジョブを実行する際にメディアシェア ライブラリでサムネイルを生成するかどうかを制御します。
<IncrementalSync> <Enabled>true</Enabled> <Interval>5</Interval> <ThreadCount>3</ThreadCount><WorkingThreadTimeOut>30</WorkingThreadTimeOut> </IncrementalSync>	ノード全体を使用して、コネクタの増分同期ジョブ設定を構成します。増分同期ノードには、4 つのサブノードがあります。 • コネクタの増分同期ジョブ機能を有効または無効にします。 • 2 つの増分ジョブの間隔。単位は分です。間隔時間を正の整数に変更することができます。 • 増分ジョブに使用できるスレッドの最大数。この要素の値は正の整数でなければなりません。この要素の値に上限はありませんが、値が 100 を超えると、警告メッセージがエージェントログに表示されます。

要素	機能の説明
	• 30 分以上応答がない場合、実行中の増分ジョブをタイムアウトします。この値を正の整数に変更することができます。単位は分です。

付録 D: カスタマイズ サポート表

コネクタ ライブラリ (ファイルシェア ライブラリおよびメディアシェア ライブラリ) を除き、DocAve コネクタでは、特定の SharePoint ライブラリをコネクタ ライブラリに変換し、それらにコネクタの設定を適用することができます。

√ はライブラリをコネクタ ライブラリに変換することができることを意味します。

× はライブラリをコネクタ ライブラリに変換することができないことを意味します。

SharePoint ライブラリ	**コネクタ ライブラリへの変換**
ドキュメント ライブラリ	√
フォーム ライブラリ	√
画像ライブラリ	√
メディア ライブラリ	√
Wiki ページ ライブラリ	×
データ接続ライブラリ	×
スライド ライブラリ	×
レポート ライブラリ	×

SharePoint から外部ストレージ システムへの同期

SharePoint から外部ストレージ システムに同期する際にサポートされる / サポートされないデータ イプは、次の表のとおりです。

SharePoint ライブラリから外部ストレージへの同期	**ネットシェア**		**WMS に関連付けられたネットシェア**	**HDS Hitachi コンテンツ プラットフォーム**	**クラウド ストレージ**	**コメント**
ファイル	√		√	√	√	
フォルダー	√		√	√	√	
メタデータ	制限付きサポート		制限付きサポート	×	×	Office ファイルのメタデータはファイル コンテンツ内に含まれます。従って、Office ファイルのメタデータを外部ストレージ システムに同期することができます。ファイル コンテンツにメタデータが含まれないファイルの場合、メタデータを外部ストレージ システムに同期することはできません。
権限	×		×	×	×	

外部ストレージ システムから SharePoint への同期

外部ストレージ システムから SharePoint に同期する際にサポートされる / サポートされないデータ イプは、次の表のとおりです。

なお、ファイルまたはフォルダーが初めて SharePoint に同期される場合のみ、ファイルとフォルダーのメタデータおよび権限を同期することができます。SharePoint またはストレージ パスのいずれかで、メタデータまたは権限を変更する場合、同期ジョブの実行中にメタデータおよび権限は同期されません。

外部ストレージから SharePoint ライブラリへの同期	**ネットシェア**		**WMS に関連付けられたネットシェア**	**HDS Hitachi コンテンツ プラットフォーム**	**クラウド ストレージ**	**コメント**
ファイル	√		√	√	√	
フォルダー	√		√	√	√	
メタデータ	√		√	×	×	4 つの既定のメタデータ (データの作成者、更新者、最終保存者および所有者) 以外の Office ファイルのメタデータを同期すると、同期のスピードに深刻な影響が出ます。そのため、4 つの既定のメタ

外部ストレージから SharePoint ライブラリへの同期	ネットシェア		WMS に関連付けられたネットシェア	HDS Hitachi コンテンツ プラットフォーム	クラウド ストレージ	コメント
						データ プロパティだけが、コネクタ プロパティ マッピングで選択されます。
権限	√		√	×	×	

付録 E: エージェント ツールによる BLOB プロバイダの有効化

DocAve GUI を介してファーム上に EBS または RBS をインストールしようとする際にエラーが発生する場合に、このツールを使用して、必要な手順を実行することができます。

ここでは、.exe ツールを使用して、EBS/RBS を有効にする手順を説明します。BLOB プロバイダに関する詳細については、BLOB プロバイダの構成 を参照してください。

なお、エージェント アカウントを使用して、該当する .exe ツールを実行することをお勧めます。次の 2 つの .exe ツールを実行するために必要な権限の詳細については、ライセンスと権限 を参照してください。

EBS の有効化

このツールで EBS を有効にするには、以下の手順に従ってください。

***注意:** EBS を有効にする場合、 .dll ファイルが再ロードされるため、IIS を再起動する必要があります。

1. DocAve エージェントのインストール パスにアクセスします。既定のパスは ".…¥AvePoint¥DocAve 6¥Agent¥bin" です。
2. **AgentToolSP2010StorageEBS.exe** を探して右クリックし、**[管理者として実行]** を選択します。
3. 以下のボタンがツールに表示されます。
    - **EBS の状態の確認** のフィールドには、次のオプションがあります。
        - **EBS を確認** - ファームで EBS の有効化を確認します。
        - **EBS を有効にする** - ファームで EBS を有効にします。ポップアップ ウィンドウで、IIS をただちに再起動するか、または後で再起動するかどうかを選択します。
        - **EBS を無効にする** - ファームで EBS を無効にします。ポップアップ ウィンドウで、IIS をただちに再起動するか、または後で再起動するかどうかを選択します。
    - **Blob Com のインストール** フィールドには、次のオプションがあります。

- **インストール** - BLOB Com をファームにインストールします。ポップアップ ウィンドウで、IIS をただちに再起動するか、または後で再起動するかどうかを選択します。
- **アンインストール** - BLOB Com をファームからアンインストールします。ポップアップ ウィンドウで、IIS をただちに再起動するか、または後で再起動するかどうかを選択します。

- **Blob Com が正しくインストールされているかどうかを確認する** フィールドには、次のオプションがあります。
  - **確認** - 左側のフィールドに表示されるアイテムの状態を確認します。

RBS の有効化

このツールを使用して RBS を有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. DocAve エージェントのインストール パスにアクセスします。既定のパスは …¥AvePoint¥DocAve6¥Agent¥bin です。
2. **AgentToolSP2010StorageRBS.exe** を探して右クリックし、**[管理者として実行]** を選択します。
3. The following buttons are shown in the tool.
   - **リモート BLOB ストレージ インストール状態** のフィールとには、次のオプションがあります。
     - **確認** - このファームでRBS のインストール状態を確認します。
     - **インストール** - ファームに RBS をインストールします。
     - **アンインストール** - ファームから RBS をアンインストールします。
   - 以上のオプションを使用して RBS インストール状態を確認した後に、**リモート BLOB ストレージ インストール状態** フィールドで以下のアクションを実行することができます。
     - **参照** - ファームのツリー構造を生成します。ツリーはコンテンツ データベース レベルまで展開されます。
     - **確認** - ツリー上の SharePoint ノードを選択し、**[確認]** をクリックし、RBS を選択したノードで有効するかどうかを確認します。
     - **有効** - 指定したノード上の RBS を有効にします。
     - **無効** - 指定したノード上の RBS を無効にします。

通知

この発行に含まれている資料はAvePoint, Incに所有または提供され、AvePoint およびそのライセンス提供会社のプロパティであり、著作権、登録商標ならびに他の知的所有権に関する法律によって保護されています。この発行内の登録商標または著作権はいずれも削除または変更することができません。

著作権

Copyright © 2013 AvePoint Japan K.K. All rights reserved. 本書の著作権は AvePoint Japan 株式会社に帰属します。本書に掲載されている情報はすべて日本著作権法において保護されており、内容の無断複製、更新、転載を禁じます。本書のいかなる部分、いかなる書式および電子通信、機械的送信、複写、記録などのいかなる方法、あるいは AvePoint Japan 株式会社 (〒 108-0075 東京都港区港南 2 丁目 4-15 品川サンケイ ビル 2 階)、ならびに本書に掲載する情報がサード パーティに所有される場合サード パーティによる事前の文書による許諾なしに複製、保存、送信を禁じます。

登録商標

AvePoint®、DocAve®、AvePoint ロゴおよび AvePoint ピラミッド ロゴは AvePoint Japan 株式会社による日本特許庁登録済みの商標です。これらの登録商標および本書に使用されている他の商標はすべて AvePoint の専有プロパティであり、文書による許諾なしには使用できません。
Microsoft、MS-DOS、Internet Explorer、Microsoft Office SharePoint Servers 2007/2010、SharePoint Portal Server 2003、Windows SharePoint Services、Windows SQL server、および Windows はマイクロソフト株式会社の商標または登録商標です。
Adobe Acrobat、および Acrobat Reader はAdobe Systems, Incの商標です。
その他本書に掲載されている商標はすべて該当の所有者のプロパティであり、許諾なしに使用することを禁じます。

変更

本書は情報の提供のみを目的とし、通知なしに変更または更新される場合があります。当社では最新、そして正確な情報を提供するよう努力しておりますが、あらゆるコンテンツの誤りもしくは脱落に起因する間接的、派生的に生じた損害に対し、一切の責任を負わないものとします。当社は、ユーザーに対し予告、通知をすることなく記載内容を変更する権利を所有します。

AvePoint Japan 株式会社

〒 108-0075 東京都港区港南 2 丁目 4-15

品川サンケイビル 2 階